

始



大 正
五 年 度

神奈川縣水產試驗場報告

神奈川縣水產試驗場

14-306

大正五年 神奈川縣水產試驗場報告

漁撈部 目次

鯉鮪沖取網試驗

一、總說	1
一、試驗ノ組織	1
一、試驗ノ狀況	2
一、網具改造	2
一、使網漁獲狀況	4
一、魚群	6
一、漁獲高	7
一、收支計算	8
附巾着網并揚繰網申合規約	14

改良小臺網試驗

一、總說	17
一、試驗ノ組織	17
一、漁具	17

大正 7. 5. 30 内交

目次

一、卷揚装置	二二頁
一、風向風力	二二頁
一、降雨	二四頁
一、潮向	二四頁
一、急潮	二五頁
一、使網日數	二六頁
一、網締回数	二七頁
一、魚群并魚道	二七頁
一、漁獲物處理	二九頁
一、經濟	二九頁
一、四ヶ年繼續試験ノ結果	三一頁
一、總説	三四頁
一、網具構造變改	三四頁
一、集魚燈	三五頁
一、集魚狀況	三五頁
一、使網回数ト漁獲回数	三八頁
一、魚價	三九頁
一、收支計算	三九頁

鱈焚寄網試験



鯛曳網試験

一、總説	四一頁
一、試験ノ組織	四一頁
一、網具構造使用法	四一頁
一、收支計算	四二頁
一、使網日誌	四二頁

製造部

鯉節製造傳習

一、總説	四四頁
一、傳習期間及傳習生	四四頁
一、傳習方法	四四頁
一、傳習用原料	四五頁
一、傳習成績	四五頁
一、傳習製品	四六頁

アンチヨビ製造試験

一、總説	四七頁
一、原料及其ノ處理法	四七頁
一、製造法	四七頁

目次

一、容 器	四八頁
一、肉詰上ノ注意并注入鹽水	四八頁
一、歩留及製品重量	四九頁
一、輸出試賣	五〇頁

養 殖 部

鹹水養魚試驗

一、車蝦ノ蓄養	五一頁
イ蓄養池	五一頁
ロ種蝦放養	五一頁
ハ給 餌	五二頁
ニ蓄養中ノ概況	五三頁
ホ防寒設備	五四頁
ヘ收納步減	五六頁
ト經 濟	五七頁
一、サイマキノ養成	五九頁
第一回	五九頁
イ養成池	五九頁
ロ種蝦放養	五九頁
ハ給 餌	六〇頁

鮎人工孵化放流試驗

一、試驗ノ趣旨	七七頁
一、孵化場ノ位置	七七頁
一、孵化場ノ設備	七七頁

一、孵化用及採卵用器具	七八頁
一、親魚ノ漁獲	七八頁
一、瀬付場	七八頁
二、瀬付ノ時期	七九頁
三、瀬付ノ時刻	七九頁
四、漁具及使用方法	八〇頁
五、親魚ノ活著	八〇頁
一、採卵方法	八〇頁
一、採卵状況	八一頁
一、發生經過并放流	八二頁
二、定期海洋観測表	八九頁
一、表層浮游生物査定表	九二頁
講話、講習及實地指導	九三頁

調査部

漁業基本調査

鯉 鮪 沖 取 網 試 験

一、總 說

本縣ニ於ケル鯉ノ來游ハ大正二年以後ハ元年以前ノ如クナラス各年共比較的少ク本年度亦寥々トシテ數フルニ足ラス爲ニ本漁業ハ一般ニ優良視セラル、ト雖トモ未タ以テ漁獲能力ヲ充分發揮スルニ至ラサルナリ

本試験ト漁期、漁場ヲ畧同フセル小田原、國府津地方揚繰網十統ノ總漁獲高ハ約四萬二千圓、平均一統ニ付四千二百圓、利益合計約一萬一千圓、平均一統ニ付千五百圓而シテ本試験ノ漁獲高ハ四千四百圓、利益千二百圓ニシテ右平均漁獲高ト利益高ヲ超過シ則チ既往四年間入如ク本年度モ亦揚繰網ニ比シ優等ノ位置ニ在リ

本年度魚群ハ殆總テ鮪ニシテ連年見サルコトナカリシ鮪ノ如キ只僅ニ一群ヲ見タルノミ鯉ハ六月下旬鮪ニ混シ及八月下旬小群ノ稀ニ來リシアルノミ而本年度ノ鮪群ハ六月半ヨリ七月半迄ニ於テ多ク且概ネ一定ノ海區(大磯南十哩)ニ入レハ日トシテ見サルナキノ狀況ナリシモ漁獲甚困難ナリキは一ハ潮流ノ方向不適ナリシコト其因ヲ爲スモ多クハ群中ニ目鉢鮪ノ大ナルモノ混在スルニ依リシモノ、如シ

網中魚ノ網際ヨリ離ル、ヨ防ヲ爲網立テテ増シ舳間ヨリ逸スルヲ禦ク爲堰切網ヲ附シタリ然レトモ其効力ヲ顯著ナラシムヘキ機會少カリキ

本年度ノ鮪ハ大ナルモノ多カリシヲ以テ魚取網地ノ耐力不足ヲ感シ麻網地ヲ入レタリ

本年度ハ出漁シ能ハサル天候打續キ出漁日數ハ四十日ニ過キヌ五ヶ年中ノ最少ナリ剩ヘ鯉群稀少ナリシ爲使網回数僅ニ二十四回ニシテ且漁獲困難ノ場合多ク漁獲回数只四回ニ止リキ

一、試験ノ組織

本試験ハ例年ノ通り水産局並水産講習所ト聯絡シ小田原町石黒清次郎ニ之カ經營ヲ囑託セリ

一、試験ノ状況

本年度ハ五ヶ年中出漁日數最少休漁日數最多ニシテ兩者殆相伯仲セリ是本年度ハ八月ニ入り荒天打續キ休漁日數ハ出漁日數ヲ凌駕セルカ如キアルニ由ル

出漁日數月別表

月	出漁	休漁	捕	要
六	一六	八	六月七日ヨリ出漁休漁ノ主因南西風強	
七	一七	一六	休漁ノ主因北東風強	
八	四〇	三六	八月廿一日マテ出漁休漁ノ主因北東風強	
計	八七	一〇九		

出漁日數各年比較表

年次	要項	試験期間	出漁日數	全期間ニ對スル百分比	休漁日數	全期間ニ對スル百分比
大正元		始六月廿三日 終八月廿六日	四九	75	一六	25
同 二		五月三十日 八月卅一日	六六	71	二六	29
同 三		六月十日 八月廿五日	五二	68	二一	32
同 四		六月十九日 八月卅一日	五〇	68	二二	32
同 五		六月七日 八月廿一日	四〇	53	三六	47
平均			五二	67	二四	33

一、網具改造

第一 網中魚ノ網襠ヨリ道ル、ヲ防ク爲メ網立チヲ増シ舳間ヨリ逸スルヲ禦ク爲メ堰切網ヲ附シタリ然ルニ本年度魚群ハ概ネ鮭群ニシテ包圍回數極テ稀少ナルニ加ヘ網襠ノ増シタルハ僅ニ數尋ニ過キササルヲ以テ其効力顯著ナラサリシト雖深キハ淺キニ優ルコト論ヲ俟タサルコト、ス

又堰切網モ其全部ヲ包圍ノ用ニ供シテ猶不足ヲ感スルカ如キ場合多ク而之ヲ舷網迄縮メ寄ルトキハ網形ノ既ニ堰切網ヲ要セサル場合多クシテ亦其効力顯著ナラザリキ

然レトモ此兩者ノ爲ニ不利ヲ感スル場合更ニ無カリキ改造セル要點左ノ如シ

- 一、魚取網ニ於テ五間、魚取脇ニ於テ三間、袖網以下ニ於テ各二間宛網地高ヲ増セシコト
- 一、堰切網ヲ附加シタルコト
- 一、網襠(沈子方出來上リ)全長ヲ六百間ニ延長シタルコト
- 一、縁網ハ四十間ニ延長セルコト

網地配置別紙圖説ノ通

經費 一、金五百八十一圓九十一錢也

内譯

品目	數	單價	金額	小計	摘
總糸六號五寸目百掛網地	一、〇五〇	二〇〇間ニ付	二一五、二五〇		網地用糸ハ總テ二十手ニシテ鮭取網トシ縁太糸入トス
同 八號八寸目百掛	三五〇	二四、八〇〇	八六、八〇〇		
同 八號三寸目百掛	二四〇	二七、五〇〇	六六、〇〇〇		
同 十二號五寸目五十掛	四八	二〇、五〇〇	九、八四〇		
同 十二號七寸五分目廿掛	二四	八、二〇〇	一、九六八		
同 十二號一尺目十掛	五三〇	四、七〇〇	二四、九一〇		
同 八號四寸目十掛	二四	三、三〇〇	〇、七九二		
同 十五號一尺目百掛	六〇	四、八〇〇	二、八〇〇		
同 十五號一尺目廿掛	三〇	一五、〇〇〇	四、五〇〇	四三八、八六〇	
總糸八號	一	二、八〇〇	二、八〇〇		總糸ハ總テ網立立用
十號	一	二、八五〇	二、八五〇		
十五號	一	二、八五〇	二、八五〇		
二十號	一	二、八五〇	二、八五〇		

二十五號	二貫	二、八五〇	五、七〇〇	一七、〇五〇	網保藏用
コールター	五〇噸	〇、六〇〇	二五、二〇〇	二七、九〇〇	
薪	一八担	〇、一五〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	網仕立用
鹽	四俵	一、〇〇〇	二、六〇〇	一四、〇〇〇	
沈子鉛	一〇貫	一、八〇〇	一四、〇〇〇	五八、五〇〇	網收蔵用
浮子コルク	七二個	六、四〇〇	五二、六五〇	五八一、九一〇	
人夫	一八人	三、六二五	五、八五〇		
計	同	四七、八〇〇			

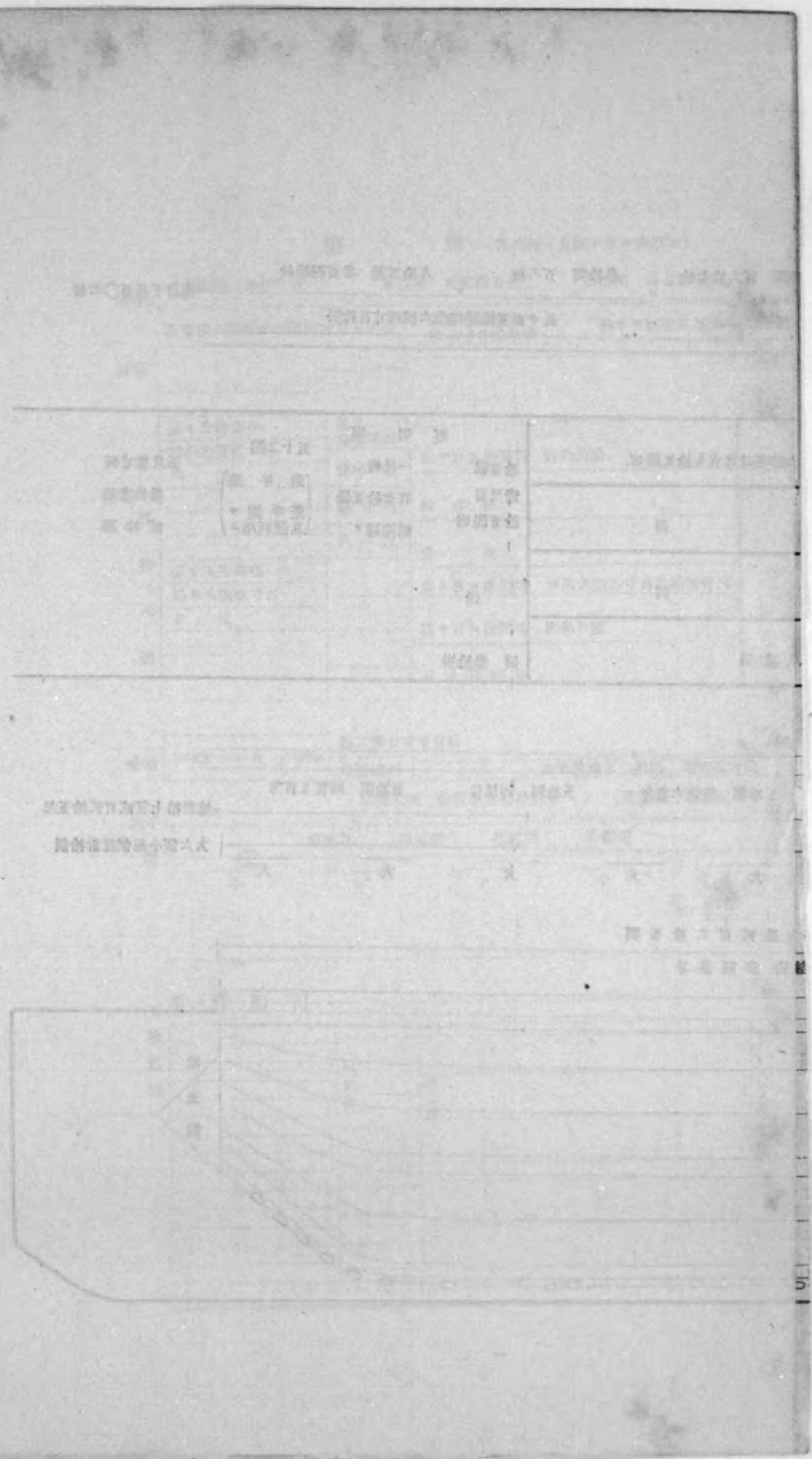
第二 魚取部網地ハ前年度ニ於テ大部分ヲ十號綿糸、一部分ヲ二十號綿糸トセシカ本年度漁期ノ初ニ於テ鯉群ノ多カルヘキ兆アリシヲ以テ網地耐力ノ不足ヲ感シ麻網地(網糸野州永野麻三子撚一尋ニ付一匁、二寸目本目編百掛)左右各十間切四反宛ヲ入替ヘタリ(第二圖参照)

而シテ六月廿二日鯉、鯨ノ大群ヲ圍ミ二十號綿糸網ノ兩端迄締寄セタルニ内容魚ノ重量過大(想像空中重量七千百貫)ニシテ網舟沒セントシ寸進寸退セル程ニ二十號綿糸ノ兩端ニ割裂數ヶ所ヲ生シ鯨ノ一部分ヲ逸シ同時ニ舳間數間ヲ破リ鯉ノ全部及鯨ノ一部ヲ逸シタリ斯ノ如クシテ猶太糸網地入替ノ必要ヲ感シタルモ麻網地未出來サルニ同月廿八日、小黃肌鯨ノ大群ヲ圍ミ強力如何ヲ虞レシモ一小破ヲ生スルナク小黃肌鯨七百三十尾(空中重量二千二百貫)ヲ漁獲セリ七月一日第三圖ノ如ク新麻網地ヲ入増シタルニ其後大群ヲ卷クコトナク其効ヲ見サリキ

一、使網漁獲狀況

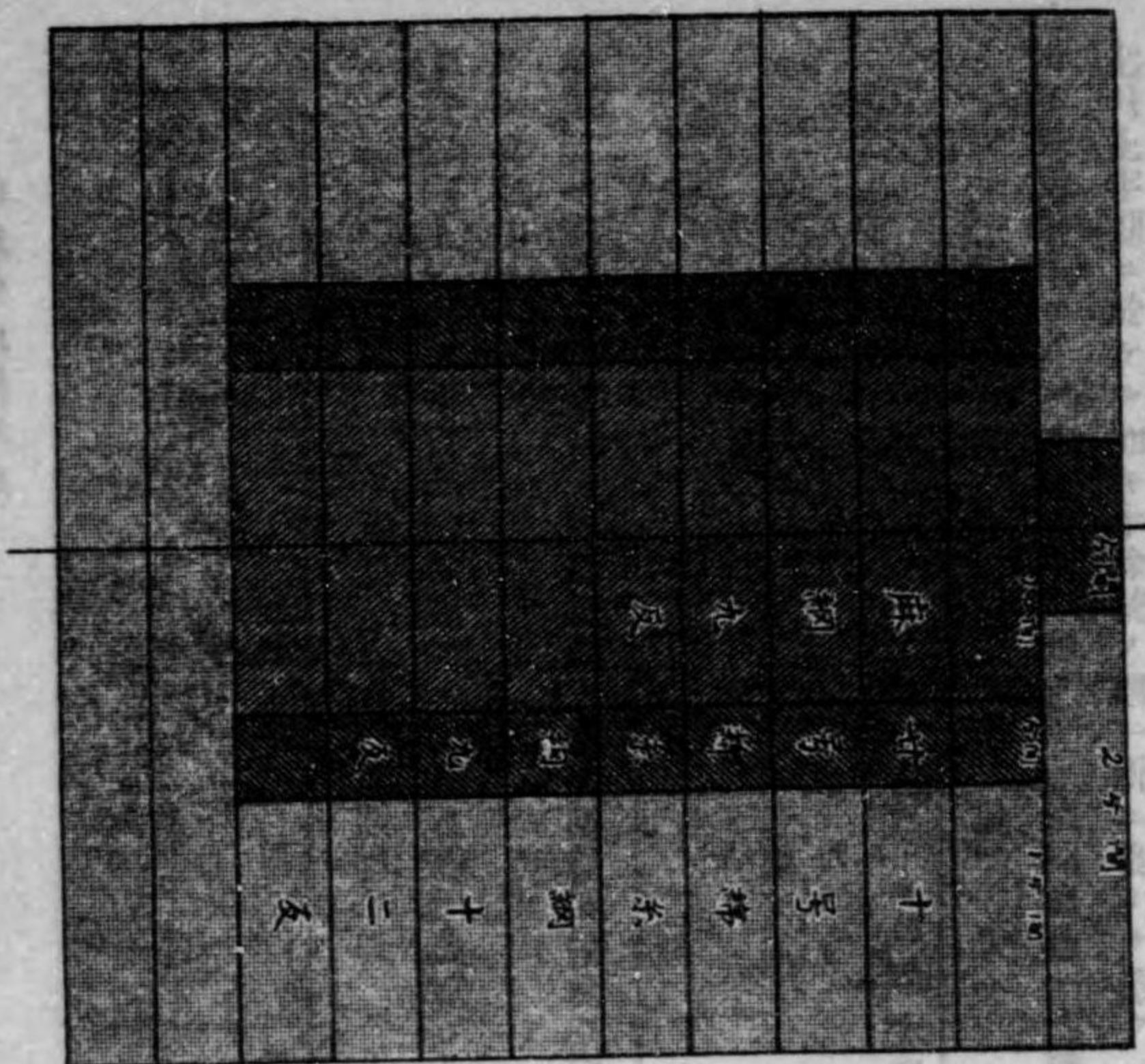
本年度ハ使網日數回數共五ヶ年中第四位ニ在リテ少シ是鯉群甚稀ナルト出漁日數少キトニ由レリ然ルニ一日中平均使網回數ハ第一位ニ在リテ多シ是漁獲日僅少ニシテ且出漁中漁場ニ在ルノ時間多キニ依レリ

使網回數累年表



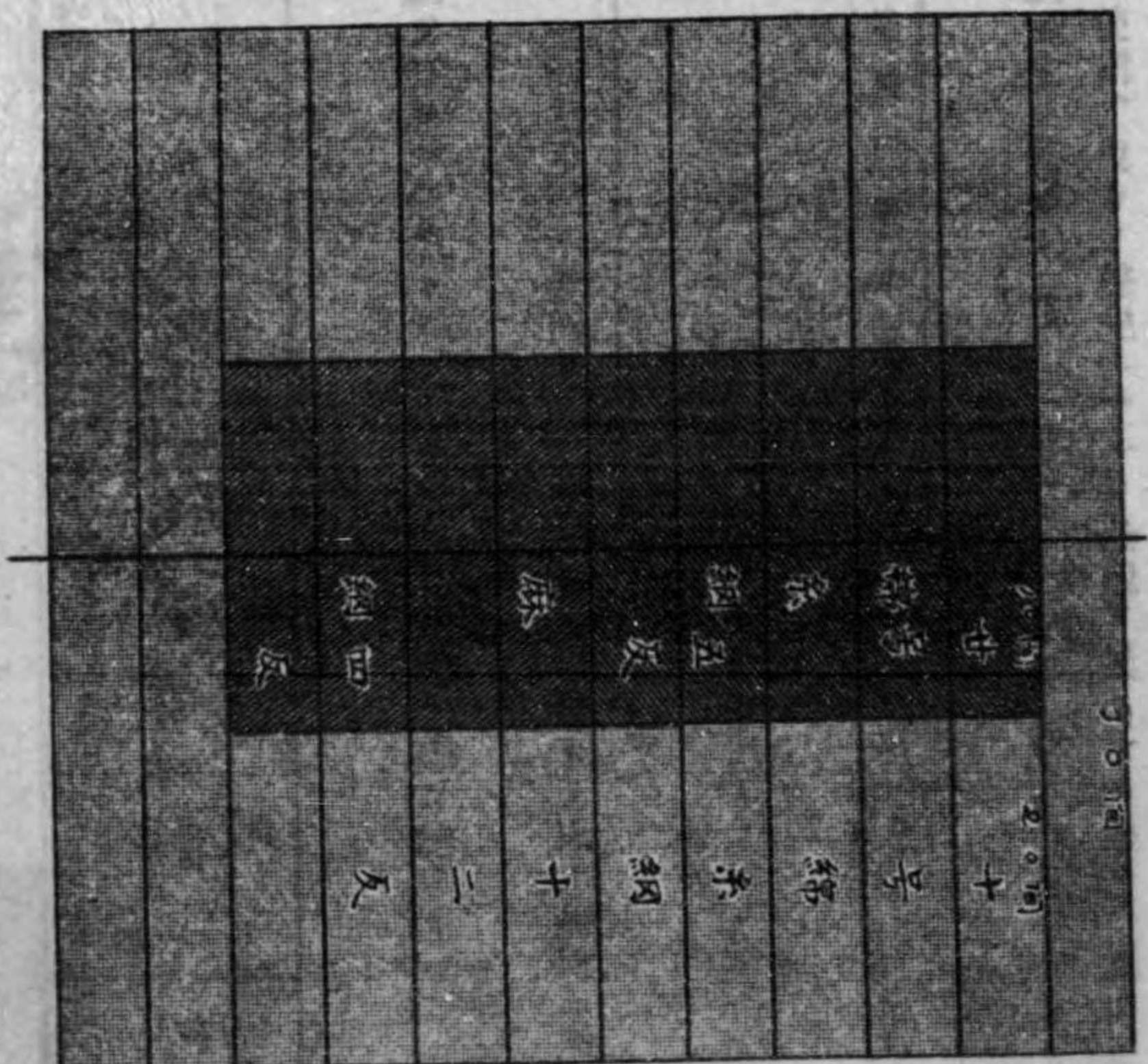
第三魚網取置圖

(乙)



第二魚網取置圖

(甲)



平均	二	三	四	五
四、六	00	11 四	15 二	31 九
三、0	00	22 八	8 一	12 五
二、二	17 四	2 一	23 三	5 二
九、八	17 四	35 三	46 六	38 一六
六、六	8 二	24 九	8 一	21 九
三、六	00	22 八	15 二	16 七
八、二	75 八	19 七	31 四	25 一
一、八、四	83 二〇	65 二四	54 七	62 二七
二、八、二	二四	三七	一三	四三

一、魚 群

本年度本船ノ見タル魚群ノ總數ハ五十九ニシテ大正二年度ノ半ニ達セサルモ三、四年度ニ幾ト近シ
 本年八月ニ於テハ只僅ニ三ニシテ各年其比ヲ見ス其勢キ理由詳ナラス八月二十日前後ノ水温比重ハ二十六、七度一、〇二五位
 ニ在リ大正四年同時期ニ於テハ二十六、七度一、〇二五位ニシテ本年度ニ似タルモ魚群少シト云フヲ得ス大正三年度ニ於テハ
 二十六、七度一、〇二六位ニシテ魚群多カラス大正二年度ニ於テハ水温稍低ク二十五、六度比重同様一、〇二六位ニシテ魚群
 少シ
 斯ノ如ク水温比重ニ於テ著シキ差ヲ見サルヲ以テ之等ノ影響カ魚群ノ多少ニ直接及サレシモノトハ斷シ得サルナリ魚群浮上時
 刻ハ定マリタルコトナク早晚ニ於テ見ルコトアリ薄暮ニ於テ會スルコトアリ又午前中ニ多シ或ハ午後ニ至リテ多シト云フコト
 ナシ、昨ハ十時ニ多ク今ハ十一時ニ多ク明ハ復十時ニ多キカ如ク逐日追時ノ例ヲモ見サリキ

魚群累年對照表

種類	月 別	年 度
鯨	二	六
	三	三
	四	四
	五	五
	六	二
	七	三
	八	四
	九	五
	一〇	二
	一一	三
	一二	四
	一三	五
	一四	二
	一五	三
	平均	計

鯨	鮪	鰹	計
20 七	34 二	9 三	35 三
0 〇	84 二	12 三	25 二
27 三	45 五	9 一	11 一
0 〇	87 二〇	4 一	23 三
13 八	64 三九	11 七	61 一
0 〇	100 一七	0 〇	17 一
31 〇	31 〇	3 一	33 一
0 〇	100 三三	0 〇	33 三
18 六	58 一九	12 四	33 三
0 〇	72 一三	0 〇	18 一
42 〇	21 五	4 一	24 二
0 〇	34 一	0 〇	3 三
16 二	54 七〇	11 四	21 二九
0 〇	85 五一	5 三	6 〇
34 三	30 二〇	4 三	67 〇
0 〇	91 五四	2 〇	59 〇
14 一	62 四九	6 五	79 〇

一、漁 獲 高

鯨、鮪、並鮪ノ前四ヶ年間平均漁獲高ノ割合ヲ見レハ鯨三割五歩、鮪三割五歩、鮪二割九歩ナリ然ルニ本年度ニ於テ九割九歩
 ハ鮪ニシテ鯨ハ僅ニ一歩ニ過キス鮪ニ至テハ絶無ナリ

漁獲高累年對照表

種類	年 度	大 正 元 年	同 二 年	同 三 年	同 四 年	同 五 年	平 均
鯨	一ヶ年間百分比	59	28	7	40	1	27
	鮪	一三〇	二、五八五	二四二	一、〇二七	0 〇	七九七
	鮪	八二六	九九五	一、〇一六	四六〇	四、三八七	一、五三七
	其 他	六一	五八	三二	四二	0 〇	三九
	計	二、四七八	五、〇二九	一、三九一	二、五三六	四、四四二	三、一七五
	鯨	一、四六一	一、三九〇	一〇一	一、〇〇六	五五	八〇三
	鮪	一、三三〇	二、五八五	二四二	一、〇二七	0 〇	七九七
	鮪	八二六	九九五	一、〇一六	四六〇	四、三八七	一、五三七

總捕沖取網試驗

計	八、一八	七、四	六、一	一、四	六、四	四、四	二、二	五、四	二、二	一、六	五、五	六、二	一、二	七、五	〇、〇	一、五	四、三	五、〇	〇、〇	二、四	九、五	八、〇
---	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

一金百五拾八圓七拾貳錢五厘也

雜收入

種	目	數	單	價	金	額	捕	要
空	箱	一〇〇個		〇六〇	六〇〇〇	〇〇〇		
空	罐	六〇個		二三〇	一三八〇	〇〇〇		
マ	地	一八〇個		一五〇	二七〇〇	〇〇〇		
マ	地	一〇五個		一八五	一九二五	〇〇〇		
麻	地	二〇〇間		二五〇	五〇〇〇	〇〇〇		
計				七〇一	一五八〇	七二五		

一金貳百五拾七圓貳拾參錢八厘也

魚市場手數料

魚	市	場	賣	上	高	六	分	手	數	料	捕	要
小	田	原	四、二八七	三〇〇	二五七	二三八	漁獲高此外一五四、九〇〇手數料不要					

一金八百八拾參圓五錢也

諸備給

種	目	員	數	單	價	金	額	捕	要
船	頭	一五〇人		四〇〇	六〇〇〇	二	人		
漁	夫	一、三九四		四〇〇	五五七〇	同	網舟手舟共三十六人		
同	水	二八五		三〇〇	八五五〇	三	人		
母	水	七、五ヶ月		五〇〇	三七五〇	同	人		
網	番	二、五ヶ月		三〇〇	七五〇〇	一	人		
計		七九人		二五	八八三〇	一	人		

一金五百七拾圓貳拾錢貳厘也

步合及賞與金

種	目	數	單	價	金	額	捕	要
步	合	七反		五七〇	四九八〇	二二二		
賞	與				六八〇〇	〇〇〇		
計					五七〇三	九九〇		

漁獲物賣上高手取金四千五百拾壹圓七拾六錢五厘
ノ一割二分
六月廿八日大漁

總捕沖取網試驗

食糧及祝料

經銷沖取網試驗

一金參百參拾六圓四拾七錢五厘也

種	目	數	單	價	金	額	摘	要
食	糧	三二七人		一五〇	四九	〇〇五	母船乘組員	
祝	酒	一二六枚		六〇〇	一八	四〇〇	單價ハ各種平均價格	
同	衣	六二〇		二一〇	一三	〇二〇		
同	帶	五〇〇		〇五二	四六	〇〇〇		
雜	儀				六六	〇〇〇		
計					三三六	四七五		

漁船及船具費

一金參百四拾四圓貳拾七錢也

種	目	數	單	價	金	額	摘	要
母	船	二、五ヶ月		一〇〇	二五	〇〇〇		
右	修			〇〇〇	五	〇〇〇		
湖	舟	四三日		五〇〇	二	一〇〇		
手	備			一七〇	二	七五〇		
測	器				二	七五〇		
燈	薪	一六并			三	二七〇		
計					三四四	二七〇		

漁具費

一金貳百六圓七拾七錢五厘也

種	目	數	單	價	金	額	摘	要
木	網	二〇〇間		五〇〇	四	〇〇〇	荒手用	
空	糸	一〇〇〇		一六〇	一三	八〇〇	魚取網用	
石	入	二〇個		〇五〇	二	一〇〇	網修繕用	
網	賃	八俵			三	二〇〇		
麻	七本				一	四〇〇		
麻	七反				一	四〇〇		
計					二〇六	七七五		

機關部費

一金五百八拾五圓四拾參錢四厘也

種	目	數	單	價	金	額	摘	要
輕	油	二六五罐		六一五	四二	九七五	單價ハ平均價格トス	
マ	油	八〇〇		八二〇	一一	八四四		
石	油	四斗二并		〇七〇	一	〇三五		
種	油	五并		一〇〇	二	八五〇		
ホ	費	七貫		〇三〇	二	八三〇		
口	費	一九〇本		〇一五	五	八三〇		
修	費				五	八三〇		
計					五八五	四三四		

通信運搬費

一金參拾八圓四拾貳錢也

經銷沖取網試驗

種	目	數	單	價	金	額	摘	要
電	電信	五回		二〇〇	一	〇〇〇		
車	代價	七回		二五〇	一	七五〇		
魚	魚揚					四七〇		
魚	貨費					二〇〇		
計						四二〇		水産講習所卒業式へ

雜 費

一金拾壹圓也

揚 繰 網 組 合 費

尙支出ヲ左記ノ各費目ニ分チ其ノ輕重ヲ順列シ參考ニ資セン

順位	費 目	金 額	摘 要
一	諸 備 給	八八三	出漁四十日一日平均二十二圓七錢六厘一人一日四十錢
二	機關部費	五八五	出漁四十日一日平均拾四圓六拾參錢五厘機關二十五馬力出漁以外ノ日ニ於ケル運轉費ヲモ合算セリ
三	歩合及賞與金	五七〇	一人一日平均參拾壹錢七厘歩合ハ漁獲物費上手取金ノ一割二分
四	漁船及船具費	三四四	一ヶ月平均百參拾七圓七拾錢八厘本費ハ主トシテ船借賃ナリ但從漁期間ヲ滿ニテ月半トシテ計算ス
五	食料及視料	三三六	
六	魚市場手数料	二五七	
七	漁具費	二〇六	
八	通信運搬費	三八	
九	雜費	一一	
計		三、二二二	

附 巾着網並揚繰網中合規約

同シク相模海ニ出漁スル巾着網並揚繰網ハ相互密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ各自漁業上ノ弊害ヲ矯正シ紛爭ヲ排避シ其利益ヲ増進スルヲ以テ目的トシ茲ニ相集リテ申合規約ヲ定メタリ

左ニ其ノ要領ヲ摘録セン

- 一、二網以上手舟カ魚群ヲ同時ニ見付ケタルトキハ先ニ準備整ヒタル網ヲ以テ漁獲シ其漁獲物ハ等分ニ配當スルコト
- 二、二網以上ノ網舟カ同時ニ魚群ヲ見付ケタルトキハ其魚群ノ方向ニ依リ適當ナル網ヲ以テ漁獲シ其漁獲物ハ等分ニ配當スルコト
- 三、若シ其魚群ヲ他ノ網カ漁獲シタルトキハ其漁獲物ノ四割ヲ所得シ殘餘ヲ右網ニ於テ等分配當スルコト
- 四、甲船カ魚群ヲ見付ケ網ヲ掛ケタルモ逸シ、乙船網ヲ掛ケントセシモ魚足早クシテ行キ過キ丙網ニ依テ漁獲セラレタル場合其漁獲物ハ乙網ヘ一割、殘餘ノ六割ヲ丙網ニ、四割ヲ甲網ニ配當スルコト
- 五、他ノ漁船(巾着網並揚繰網ニ屬セスシテ魚見ヲ職業トセル船)カ魚群ヲ見付ケ、一ノ手船カ其漁獲權ヲ受ケタルモ其手船ノ屬スル網船カ遠隔セル場合ハ他ノ最寄ノ網船ニ其權利ヲ讓リ其漁獲物ノ二割ヲ所得シ、七割ヲ其網ニ殘餘ヲ他ノ漁船ニ配當スルコト
- 六、尙此魚群ニ對シテ網ヲ掛ケシモ漁獲シ得ザリシ網ハ更ニ配當ヲ受ケサルコト
- 七、甲網ヲ逸シタル魚群ニ對シ最寄ニ居合ノ乙、丙、等カ網ヲ掛ケタル後ニアラサレハ甲網ハ再網ヲ掛ケ得サルコト
- 八、一ノ網ヲ逸シタル魚群ヲ漁獲セシ他ノ網ハ漁獲物ノ六割ヲ所得シ前者ニ殘餘ヲ配與スルコト
- 九、一網ニテ能ク魚群ノ全部ヲ漁獲シ能ハサルモノト認メ他ノ網ヲ以テ其外圍ヲ掛ケ廻シ漁獲アルトキハ其漁獲物ノ二割ヲ前者ニ殘餘ヲ後者ニ配當スルコト
- 十、手船カ漁獲物運搬途上ニ於テ魚群ヲ見付ケ他ノ網ニ之ヲ漁獲セシメタル場合ハ其漁獲物ノ二割ヲ前者ニ殘餘ヲ後者ニ配當スルコト
- 十一、魚見ヲ職業トセサル他ノ漁船ノ見付ケタル魚群ヲ漁獲シタルトキハ其漁獲物ノ二步ヲ其漁船ニ配與スルコト

- 十、網船又ハ手船カ鉈ヲ以テ魚類ヲ突キ未タ漁獲シテラサルニ現場ニ於テ突棒船ヨリ該魚ノ漁獲ヲ申込マレタル場合ハ突棒船ニ譲リ漁獲物ハ等分ニ配當シ若シ前者ニ於テ漁獲セシトキハ其漁獲物ノ二割ヲ突棒船ニ配與スルコト
- 十一、巾着網又ハ揚操網カ距岸二十町以内ニ於テ漁獲シタルトキハ其地先臺網及地曳網へ漁獲物ノ二割以内ヲ配與スルコト
- 十二、沖合ニ於テ漁獲物分配方ニ關スル交渉ニ與ルモノハ船頭ノミニシテ他ノ船ニ乗込ムコトヲ得船頭ハ網一張ニ付四人以内トスルコト
- 十三、他船ト關係アル漁獲物ハ關係船ノ承認ヲ經タル後ニアラサレハ船首艙内ニ收ムヘカラサルコト
- 十四、掛魚(供魚)ハ鮭鯉等ヲ以テシ網一張ニ付四尾以内トスルコト
- 十五、漁獲物ハ總テ網主ニ於テ處理スルコト
- 十六、船員ニ給與スヘキ歩合(賞與)ハ漁獲物賣上代金ノ一割二歩トシ内五歩ハ漁期ノ終了スル迄網主ニ於テ保管スルコト
- 十七、漁獲物ヲ船員カ志ニ販賣シタルトキハ之ヲ盜魚ト認メ船員ニ對シ前項ノ歩合ヲ給與セス此歩合相當金額ハ網主一同ノ協議處分ニ委託スルコト
- 十八、漁夫ニシテ本規約ニ違反シ又ハ理由ナクシテ同盟休業ヲ爲シタルトキ他ノ網主ニ於テ其漁夫ヲ雇備スルコトヲ得又其網主ニ於テ漁夫ノ補充ヲ欲スルトキハ他ノ網主一同ハ各網一張ニ付漁夫六名以内ヲ提供スルコト
- 十九、漁夫賃金ハ毎年漁期開始前網主一同協議ノ上決定ス
- 二十、網主ニ於テ總代五名ヲ互選シ違約者處分方法ヲ議定セシム

改良小臺網試験

一、概 要

本試験ハ前年度ニ於テ其成績畧々判明セルモ猶漁具構造ノ點ニ於テ試験ヲ累スルノ必要アリ即本年度ニ於テハ後章記スル如キ構造ヲ以テシテ之カ得失ヲ攻究セントセリ

然ルニ本年度試験ニ於テハ六月十八日網入ヨリ十一月四日網終ニ至ル間例年ニ比シ偏北風久シク吹續シ、魚群ノ來游極テ薄ク、雨天亦著シク多クシテ西北西潮(所謂西潮)最モ急、操網困難ニシテ本試験ノ成績顯著ナラス、左ノ如キ結果ヲ得タルニ止マレリ

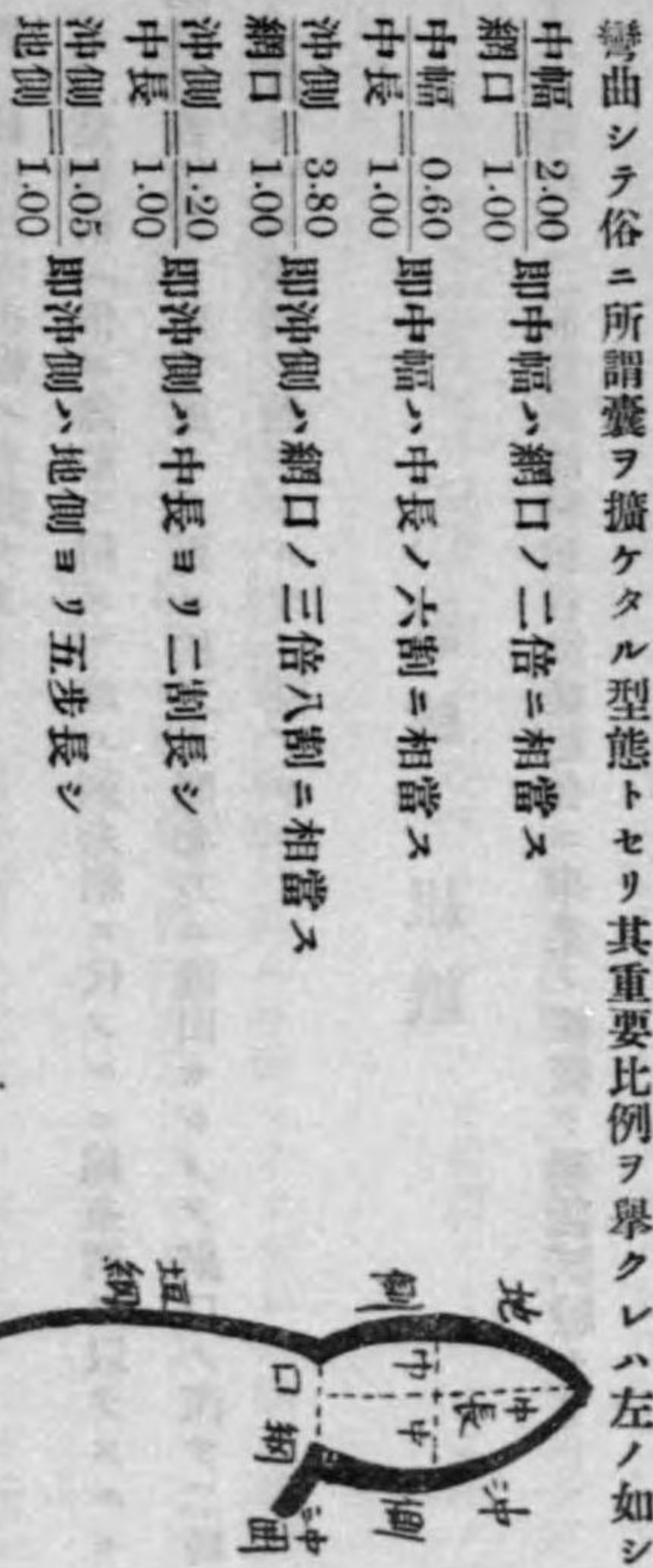
- 一、網型ノ幅廣ナルト狹長ナルトハ其優劣明瞭ナラザリキ
 - 二、網口下渡中部ニ網地ヲ増加スルハ有利ナルモノ、如シ
 - 三、碇網ニツイヤヲ用フルハ波浪ノ場所ニ於テハ不利ナルモノ、如シ
 - 四、繰網用巻揚機ハ有効ナリ
 - 五、魚取網(俗ニ魚敷ト稱ス)地ハ麻糸網ニ代フルニ綿糸網ヲ以テスルモ支障ナキノミナラス却テ經濟上利益アリ
- 又網具敷設置ヲ前年度ヨリ更ニ約三十間北方ニ進出セシメテ網口ノ深サ二尋ヲ増加セシメシモ此移動ハ前年度ノ場所ニ比シ却テ「深ミ」ニ接觸シ過キタルヤノ疑アリタリ

二、試験ノ組織

前年度ニ繼續シ三浦郡西浦村秋谷漁業組合ニ事業ノ經營ヲ囑託試験セリ

三、漁 具

(一) 網型ノ幅廣ナルト狹長ナルトノ優劣ヲ比較試驗セシ爲ニ本年度ノモノハ中央ノ幅ヲ普通ノモノヨリ約二割増シ沖側ヲ特ニ



彎曲シテ俗ニ所謂囊ヲ擴ケタル型態トセリ其重要比例ヲ擧クレハ左ノ如シ
中幅 2.00 即中幅ハ沖口ノ二倍ニ相當ス
沖口 1.00
中幅 0.60 即中幅ハ中央ノ六割ニ相當ス
沖側 1.00
沖側 3.80 即沖側ハ沖口ノ三倍八割ニ相當ス
沖口 1.00
沖側 1.20 即沖側ハ中央ヨリ二割長シ
中幅 1.00
沖側 1.05 即沖側ハ地側ヨリ五歩長シ
地側 1.00

網幅ヲ斯ノ如ク擴クルトキハ構造ニ於テハ網地ヲ多クシ作業ニ於テハ網舟ノ長ヲ幾分増セルニ漁夫二人計リヲ加フルコトヲ要スヘシ然レトモ之カ爲ニ増加スル經費ハ一ヶ月僅ニ三四十圓ニ相當シ數フルニ足ラサルモノナレハ之カ爲ニ魚溜リヲ好クシ以テ増加スル漁獲高ハ前者ヲ補フテ優ニ餘利アルヘキヲ豫想セリ

本年度ニ於テハ前陳ノ如ク魚群ノ來游極テ薄カリシ爲メ本試驗ハ明瞭ナラサリキ
(二) 網口下渡ニ網地ヲ増加スルハ利益ナルカ如シ縮網ノ始ハ先ツ網口ヲ閉テサルヘカラス、此時間數分ヲ費ス今假ニ魚ノ游泳速力ヲ一分間ニ付百間(一時間六裡)トスルトキハ恰モ一分間ハ魚ノ網奥ヨリ出テ、網口外ニ逸スル時ナリ而此游泳速力ハ決シテ過大ナル推測ニハアラサルヘシ

一旦網奥ニ入りタル魚ハ容易ニ網前ニ逆游スルモノニアラスシテ多クノ場合網内ニ於テ悠々廻游セルハ屢々明ニ實驗スル所ナルモノハ唯魚群ノ水面又ハ水面ニ近ク游泳シテ目撃シ得ルモノ限リ明ナル事實ニシテ其以下ニ在ルモノニ就テハ單ニ推量ニ止リ事實ニ於テ果シテ如何カラ斷セス、况シテ入網後長時間ヲ經過セルモノニ於テヲヤ

大正四年八月蝾ノ小群ヲ網口ヲ起セル中ニ逸シタル例アリ其他必スシモ網前ニ向テ游泳セサルモノニアラサルヲ思フニ於テハ最迅速ニ網口ヲ閉ツルノ方法ヲ講セサルヘカラス

其方法ニアリ一ハ即網ヲ輕クスルコト他ノ一ハ即起網ヲ引縮ムル力ヲ増スコトナリ、然レトモ後者ハ特別ノ器具ヲ備フヘキ經費ヲ要シ且網具ノ其部邊一帶ニ於ケル材料ノ耐力ヲ損スルコト尠ナラサルヘシ、前者ハ此部分ニ幾分網地ヲ擴張シ以テ縮網ヲ迅速ニ且輕クスル方法ニシテ其經費ヲ擧ケテ數フルニ足ラサレハ即前者ヲ採用スルコト、セリ

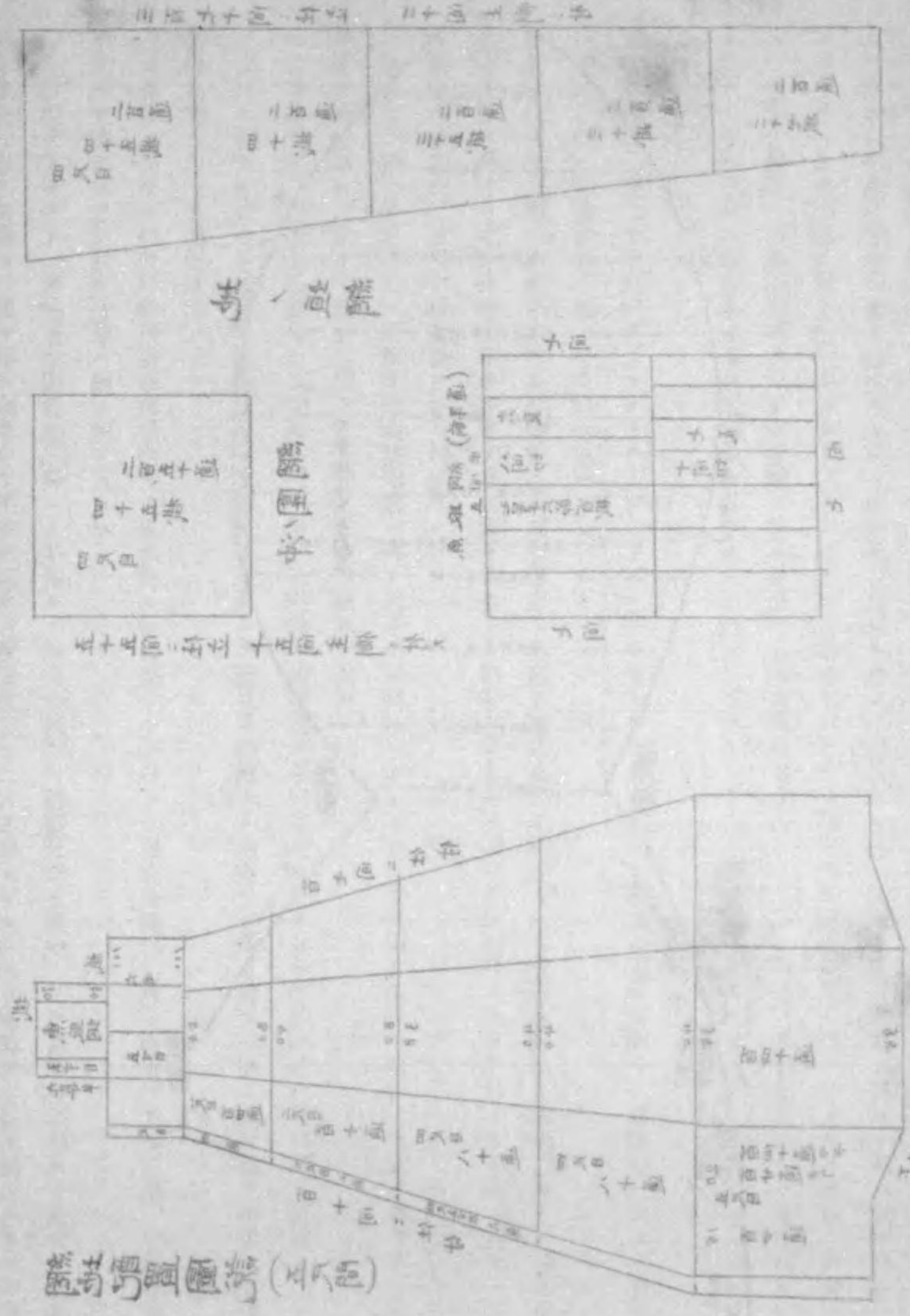
網口網地五尺目中部ヲ十目擴張シテ俗ニ所謂前垂網ノ形態ヲ成セリ此前垂ノ部分ハ網口海深ノ約三分一ヲ殆ト重サヲ感スルコトナクシテ閉ツルコトヲ得ヘキモノナリトス
(三) 本縣ニ於テ曾テ碇網ニワイヤロープヲ試用セシ者アルモ或ハ切取困難ナリ或ハ浮ヲ波ニ引キ込ミ易シナト、稱シテ行ハレ

ス然レトモ切取部ノミハ他ノ材料ヲ充テ此缺點ノ一分ヲ避ケ得ヘキヲ以テ浮ノ波ニ引キ込マル、コト甚シキ否ヤヲ試驗セントセリワイヤカ浮ヲ波ニ引キ込ミ易シト云フハワイヤカ他ノ材料即チマニラ網又ハ葉網ニ比シ伸縮度少キヲ以テナリ然共或曰フマニラ網モ葉網モ長時日波ノ中ニ在リテ伸張セラレツ、アルトキハ伸ヒ得ル程伸ヒ盡シテ餘リ無キニ至ルヘシサレハワイヤニ比シ其伸縮度多少アルコトナシト

ワイヤ碇網ニ試驗ノ日未猶淺キニ切斷セラレシモノ多キヲ以テ總テノ點ニ於テ結果ヲ斷言シ難キモ事實ニ於テワイヤ碇網ノ浮ハ波ニ引キ込マレ易キノ觀アリ、而此傾向ハ漁具ノ他ノ部分ニ大ナル惡影響ヲ及スモノニアラス、但波ノ碇網並浮ニ對スル抵抗ヲ幾分増大シ以テ此等ノ耐力ヲ多少減殺スルコトアルヘシ而漁業終了ノ上切取ルニ於テハ此ノ如キ構造トシ差支ナシ右碇網ハワイヤ五十間ノ上下兩端ニマニラロープ五尋宛ヲシヤツクルニテ連結セリマニラロープハ上ハ浮竹ニ下ハ土俵ニ結付ノ方法ヲシテ容易ナラシムル爲ニ用キタリ

其寸法等左ノ如シ

寸法	ワイヤ	ロープ	網	網	網	網	網	網
(一) 六本ノ内 二本	廿四本線六股柔軟線索 周一吋(徑約二分五厘) 五〇尋	約 七九〇貫	周三吋四分 (徑約一寸)	約 一、〇〇貫	側輪徑 八分七吋 (約七分)	約 六一〇貫	流徑一吋 八分五厘(約 一寸五分五厘)	
(二) 二本	七本線六股網線索 周一吋四分(徑約三分五厘)	約 八四〇貫						
(三) 二本	周一吋二分(徑約四分)	約 一、二六〇貫						



生スルノ虞アレハ右ヲ以テ限度トスヘシ

本装置ヲ施ス爲ニ網ノ重量ヲ増加スルハ百尺ニ付約二貫三百クニシテ慮ルニ足ラス却テ網ノ沈靜ヲ助クルコトヲ得

(五) 魚取部網地ハ綿糸七號十六節百十八間、コールド染料價格七十三圓五十錢ニシテ之ヲ從來業者ノ用ウル永野麻網地一反

二間半八百八十付付カッチ染ヲ以テスルトキハ價格二百十三圓五十錢トナリ綿糸網三枚ノ價格ト殆ト匹敵セリ

右價格ハ大正三年四月現在ナルモ其後殆ト兩者平行シテ上下シツ、アレハ兩者ノ比例ハ大差ヲ生セサルモノトスルコトヲ得

本網ハ常ニ二張ヲ有シ交互ニ之ヲ入レ大正三年度ヨリ同五年度ニ至ル三ヶ年(三漁期)間使用シ大正五年度ニ於テハ二張ニ對

シ修繕ノ爲メ一張分ノ網地ヲ補足セリ尙同年度ニ於テハ別ニ中古麻網一張ヲ有シ都合三張ヲ交替ニ入レタリ要スルニ綿糸網三

張ハ約二漁期半ノ使用ニ堪ヘタリ

換算スレハ二百二十圓ノ網地ハ二漁半ノ使用ニ堪ヘタリ

麻網地ハ二張ヲ以テ恰モ二漁期半ノ使用ニ堪フルト云フ而二漁期半間ニ使用スル麻網地ノ代價ハ綿糸網地ニ比シ約二倍ニ相當

ス但漁獲ノ多少ト網地耐用期間長短トハ反比例的關係ヲ有スルヲ以テ本試驗ノ如ク漁獲ノ甚多カラサリシモノヲ以テ直ニ標準

トスルヲ得サランモ而モ大誤ナカルヘシ

又鮪鱈ノ如キ大魚ノ漁獲アル漁場ニ於テハ本網ヨリモ猶幾分太糸ヲ使用スルヲ以テ經濟上得策トスヘシ

浮竹、土俵等

一、臺 竹長二十四尺二十二本乃至二十三本東三東ヲ樫九太三本杉九太二本ヲ以テ筏ニ組ム

碇網ハワイヤローブ六十尋宛トシ總テ六本

土俵ハ碇網一本ニ付五十俵宛(一俵平均十六貫)

一、端先 竹長二十四尺三十五本東一東宛

碇網ハ藁網長海深ニ等シ

土俵ハ端先一挺ニ碇網二本ニシテ一本ニ付七十俵宛

改良小産網試驗

一一

一、主側 竹長五尋奥八本外六本間隔一尋乃至二尋半

碇網ハ碇網長三十五尋二房ツナキ竹奥四挺ハ二本トシ外一本宛

土俵最奥二本ハ十俵宛其他八俵宛

一、沖ノ圍 碇先竹長十二尺十三本東其他竹五本

碇網ハ碇先ハ立トシ其他ハ中央ノ竹ニ内外卅五尋網一房宛

土俵ハ碇先十五俵其他八俵宛

一、地ノ垣 竹長十二尺「わたし」十五本

「二番」 十三本

「三番」 十二本

「止め」 五本

其他半ハ沖方五本宛半地方四本宛

碇網 わたし、二番、三番、止めハ立トシ其他竹三挺目ニ内方ニ一本(卅五間)四挺目ニ外方ニ一本ノ割合ニ入ル

土俵ハ わたし三十俵、二番廿五俵、三番廿俵、止十四俵

其他八俵宛

碇製碇網等ノ太サ前年度ノモノニ大差ナキヲ以テ記載ヲ畧ス

巻揚装置

巻揚機ハ鐵製鎖車ニシテ把手ハ前年度試験ノ曲柄ヲ廢シテ直柄四本トシ回轉操作ヲ容易ニセリ

巻揚鎖ハ亞鉛鍍鐵製ニシテ釣紐ハ綿糸打紐徑二分トシ一本長五尺ヲ前記鎖環ニ通シ其兩端ヲ筋繩(綱目繩)ニ同一ニ結付ス巻揚鎖三尺二寸五分毎ニ一本ノ釣紐ヲ付シ筋繩ハ鎖三尺二寸五分ニ付一寸ヲ延長シ三尺三寸五分ノ割合トセリ

四、風向、風力

風向	割合	各日	六	七	八	九	十	十一月
東	九、〇	〇	三、六	二、三	一、九	七、四	八、四	一、九
北東	三、八	三、四	〇、二	〇、五	〇、〇	〇、八	〇、八	〇、五
北	一、一	一、一	一、〇	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一
北西	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
南西	五、二	五、九	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
南	四、〇	四、五	〇、七	〇、八	〇、八	〇、八	〇、八	〇、八
南東	〇、五	〇、六	〇、七	〇、七	〇、七	〇、七	〇、七	〇、七
無風	三、一	三、五	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
欠測	二、六	二、五	〇、五	〇、五	〇、五	〇、五	〇、五	〇、五

〔備考〕 本表日數ハ二十四時間ヲ以テ一箇トシ計算セリ表中記號(一)(二)(三)ハ假ニ定メタル風力階級ニシテ弱キヲ(一)、稍強キヲ(二)、甚タ烈シキヲ(三)トセリ

北東及北西ヨリ北ニ偏スル風向ヲ北方風トシ南東及南西ヨリ南ニ偏スル風向ヲ南方風トシ兩者ヲ比較セルニ其風向ヲ有スル時間前者四九、四ニ對スル後者四六、三ニシテ前者ノ卓越セルヲ見ル但七、八兩月ニ於テ缺測稍多ク強チ本表ノ示セル數ヲ以テ直チニ本期間ノ風向ヲ知ルヘキニアラサルモ當該從業漁夫ノ記憶ニ徵スルニ此兩月間ニ於テモ明ニ北方風ノ卓越ヲ感シタリト

三、本表ニ舉ケサル方向ノモノニハ急潮ナシ
 前二年ニ於ケル急潮ハ七月ニ最多カリシカ本年ハ八月ニ最多ニシテ前後ニ遞減セリ而東潮ニ最多ニシテ西潮之ニ亞キ其他ニ於テ少キヲ同ウセリ

潮流ノ方向ト魚群來否トノ關係ハ明瞭ナラサレトモ概シテ網ノ裏ヨリ來ル所謂西潮ハ網態ヲシテ魚ノ入網ヲ妨ケシムルヲ以テ最モ忌ム

本年度後半期ハ潮色清澄ニ過キ漁獲少キノ觀アリキ本年度ノ波浪ハ網具破損程度ノモノニ二回、概シテ大浪ナカリキ

六、使網日數

種別	月別		各別日數	六月九日ヨリ										
	割	合		一ヶ月平均	六	七	八	九	十	月	九	十	月	
使網日數	七六	二四	二三、四	一〇、三	九、〇	二四、五	二四、〇	七、〇	二一、〇	二四、五	二四、五	二四、五	二四、五	二四、五
休漁日數	二四	七、三	七、三	三、〇	三、〇	六、五	七、〇	九、〇	九、〇	九、〇	九、〇	九、〇	九、〇	九、〇
網内波				四、〇	四、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
急潮				一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五
其他				一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇

〔備考〕 本表休漁日數ハ一日中一回タニ使網無キヲ一、〇トシ半日中一回タニ使網ナキヲ〇、五トシテ計算セリ

休漁事由ノ内網修繕ハ陸上ト網場トヲ間ハス特ニ網修繕ノ爲ニ費シタルモノナリ

急潮ノ間ハ網場ニ在リテ潮ノ弛ムヲ待ツコトアリ又風波急ノ爲メ陸上ニ在リテ豫備漁具ノ製作ニ從事スルコト

アルヲ以テ全ク陸上ニ在リテテ空ウシ休業セル日數ハ本表示數ノ半ニ達セサルヘシ

十一月ハ短日間ナルヲ以テ本表ニ加ヘス

本年度試験期間ニ於テハ天候常ニ不良ナリシカ如キモ烈甚ナル荒天比較的少カリシヲ以テ能ク斯ノ如ク七割六分ノ使網日數ヲ得タリ

七、網締回数

一日中回数	月別		全日數	六月九日ヨリ										
	割	合		六	七	八	九	十	月	九	十	月		
一	〇	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	一	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	二	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四	三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五	四	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六	五	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七	六	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八	七	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九	八	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十	九	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十一	十	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十二	十一	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十三	十二	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十四	十三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十五	十四	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十六	十五	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十七	十六	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十八	十七	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十九	十八	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二十	十九	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二十一	二十	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二十二	二十一	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二十三	二十二	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二十四	二十三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二十五	二十四	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二十六	二十五	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二十七	二十六	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二十八	二十七	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二十九	二十八	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三十	二十九	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三十一	三十	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三十二	三十一	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三十三	三十二	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三十四	三十三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三十五	三十四	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三十六	三十五	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三十七	三十六	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三十八	三十七	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三十九	三十八	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四十	三十九	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四十一	四十	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四十二	四十一	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四十三	四十二	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四十四	四十三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四十五	四十四	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四十六	四十五	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四十七	四十六	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四十八	四十七	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四十九	四十八	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五十	四十九	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五十一	五十	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五十二	五十一	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五十三	五十二	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五十四	五十三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五十五	五十四	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五十六	五十五	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五十七	五十六	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五十八	五十七	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五十九	五十八	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六十	五十九	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六十一	六十	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六十二	六十一	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六十三	六十二	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六十四	六十三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六十五	六十四	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六十六	六十五	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六十七	六十六	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六十八	六十七	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六十九	六十八	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七十	六十九	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七十一	七十	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七十二	七十一	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七十三	七十二	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七十四	七十三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七十五	七十四	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七十六	七十五	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七十七	七十六	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七十八	七十七	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七十九	七十八	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八十	七十九	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八十一	八十	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八十二	八十一	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八十三	八十二	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八十四	八十三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八十五	八十四	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八十六	八十五	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八十七	八十六	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八十八	八十七	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八十九	八十八	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九十	八十九	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九十一	九十	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九十二	九十一	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九十三	九十二	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九十四	九十三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九十五	九十四	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九十六	九十五	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九十七	九十六	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九十八	九十七	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九十九	九十八	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一百	九十九	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

右表ヲ見ルトキハ一日中四回乃至八回ノ日最多シコレ前年度ト相一致セリ

損失ヲ招ケリト雖本漁業操作ニ未熟練ナル漁夫ヲ使役シ仕事ノ効率ヲ進ムルコトヲ得ス且ツ漁具補修材料ヲ充分ニ豫備スルト
 キハ平均漁期一ヶ月ニ付經費一千圓ヲ要スルハ蓋シ免レ得ヘカラサル所ナルヘシ
 今被囑託者計算ニ依ツテ試驗期間一日平均收支ヲ前年度ニ比較スレハ左ノ如シ

一日平均額	本年		前年		備考
	度	度	年	年	
收入	一七九九六	三五五五七	九三〇〇		
支出	三〇三九七	三〇二二九	二三五二〇		
損益	一二四〇一	五四二二八	一四二二〇		
損失差額	一七八二九				
一昨年度比較	一八一九				

本場負擔ニ係ル網具材料費等左ノ如シ

一金壹千參拾圓參拾貳錢也

內譯金七拾圓拾五錢也

金六百壹圓參拾七錢也

金貳百九拾圓四拾六錢也

金四拾八圓也

金拾圓貳拾錢也

金拾圓拾四錢也

被囑託者收支計算

一、收入金貳千五百壹圓四拾六錢也

內譯金貳千七百七拾壹圓四拾六錢也

金參百參拾圓也

綿糸網地
 藥繩、網、網
 ワイヤロープ
 空
 コールター
 運賃
 漁獲物代金
 殘品見積額

一、支出金四千貳百貳拾五圓拾壹錢五厘也

內譯金壹千貳百拾參圓五拾五錢也

金四拾六圓拾錢也

金百四拾參圓八拾四錢五厘也

金六百四拾七圓〇五錢也

金百貳拾壹圓七拾壹錢五厘也

金六百七拾五圓八拾參錢也

金六百貳拾七圓九拾八錢五厘也

金參百五拾八圓參拾壹錢也

金五拾五圓六拾五錢也

金拾九圓七拾錢也

金拾九圓五拾錢也

金百五拾六圓七拾八錢也

金參圓貳拾五錢也

金參拾六圓拾六錢也

金九圓〇壹錢也

金拾五圓也

金七拾五圓六拾八錢也

一、差引損金壹千七百貳拾參圓六拾五錢五厘也

一一、四ヶ年繼續試驗ノ結果

漁夫賞與
 漁夫賃
 臨時雇
 食料
 薪炭
 新網
 ワラ繩
 諸網類
 網具附屬品
 副漁具雜器
 空籠
 魚籠
 漁具材料運賃
 水運
 通信費
 借家料
 雜費

本縣三浦郡沿岸ハ落網類又ハ臺網類等ノ定置漁業ニ適當ナルヤ否ヤヲ認定セントスルヲ以テ當初ノ目的トセリ而シテ(一)魚道(二)海深海底(三)潮流波浪(四)網具敷設經費(五)作業ノ難易(六)漁獲物處理等ニ就テノ調査ヲ遂クル爲メ大正二年度ニ於テハ葉山村地先ニ瓢網ヲ大正三年乃至大正五年度ニ於テハ西浦村地先ニ小臺網ヲ敷設シテ之レカ試驗調査ノ材料ニ提供セリ
斯クテ四ヶ年繼續施行ノ結果推定シ得タル要領左ノ如シ

一 魚道ニ就テ

海深二十五尋内外迄來游スル魚種ノ主要ナルモノハ
鰹、鯖、小鯉、鮭、鮠、鯉、鰈、いば鯛、いか等ニシテ春ヨリ秋ニ至ル暖候ニ於テハ北ヨリ南ニ即チ江ノ島ヨリ城ヶ島ニ向テ進ムモノ多シ寒候ニ於テハ北上スルモノ、如シト雖魚種ト共ニ未詳ナラス

一 海深海底ニ就テ

本漁業ノ漁場トスヘキ五十尋線以内ノ海深ハ傾斜緩ニシテ隨ツテ漁場ハ陸岸ヨリノ距離ヲシテ大ナラシメ加之深淺凹凸少クシテ好漁場ヲ發見セント蓋シ困難ナリ然レトモ一般ニ暖流ニ於テハ網口ノ海深二十五乃至三十尋ニシテ足ルカ如シ底質ハ三十尋以内ニ於テ概ネ岩礁又ハ貝殻片ヲ有スル細砂ニシテ軟泥少シ是レ河川殆ント無ク海遠淺ナルニ基因スルカ

三 潮流及波浪ニ就テ

潮流ノ方向ハ沿岸ニ平行ナルモノ最モ多ク其速力ノ強大ナルモノ亦此方向ノモノ最モ多シ
激流ハ中郡以西ニ比シ尠ク繼續時間亦短シ而七八兩月ニ於テ多シ
潮流ノ方向ト漁獲高トノ直接ノ關係ハ明瞭ナラサルモ潮流方向カ網態ヲ左右スルコトニ因リテ間接ニ漁獲高ニ影響ヲ及スモノナリ

波浪ハ前述ノ如ク海遠淺ナルヲ以テ波浪比較的荒ク而モ波勢海底ニ及フヲ以テ網具ノ定置保存ニ影響ヲ來スナシトセス高浪ハ南風ニ起リ易ク盛夏ニ於テ最モ多シ然共網具ニ大破損ヲ生スル程度ノモノハ僅ニ一兩回ニ過キササルヲ例トス

四 網具敷設經費ニ就テ

本縣中郡以西地方ニ於ケル同型ノモノニ比シ此經費ヲ節減スルコトヲ得ス前述ノ如ク漁場遠淺ナルヲ以テ垣網ハ比較的長キヲ要ス

五 作業ノ難易ニ就テ

漁場ノ遠距離ニ在ルコトハ幾分ノ不便ヲ感ス
急潮激浪ノ爲ニ休漁スルハ全期間ノ約二割ニ達ス
避難所タルヘキ港灣ニ乏シカラス
網具製作並ニ乾燥場ニ充ツヘキ砂濱相當ニ近在シ便宜ナリ
土俵用砂利ノ供給ハ不便ナリ

六 漁獲物ノ處理ニ就テ

魚類ノ消費地近ク鎌倉逗子横須賀ニ在リ又輸送數時間ニシテ京濱ノ大市場アルヲ以テ一見本漁場ニ於ケル漁獲物ハ生鮮ノ儘高値ニ而カモ容易ニ賣捌カル、カ如シト雖本試驗ノ場所ハ運輸機關不備ナルニ加ヘ相當ノ魚商人ナク輸送ヲ試ミンカ運賃高ク地賣ヲナサンカ相場低ク到底有利ノ地ニアラス
本試驗大正五年度ニ於テハ氷藏庫ヲ設備シ此等ノ缺點ヲ幾分補ハントセシモ途ニ氷藏庫ニ收納スルニ足ルノ漁獲物ヲ得スシテ經過シ之カ成績ヲ見ル能ハサリシモ此ノ如キ地方ニ於テハ必要ナル設備ト云フヲ得ヘシ
若大規模ノ漁業ニシテ漁獲數量モ多大ナルトキハ自ラ運搬船ヲ備ヘ且ツ三崎並長井ノ汽船便ヲ利用スルニ於テハ斯ノ如キ不利ヲ免ル、ヲ得ン

如上ノ結果ニヨリ今ヤ三浦郡全沿岸ハ小臺網、大謀網等ノ定置漁業ヲ企畫又ハ經營スルモノ續出シ當初ノ目的ヲ達セルヲ以テ本試驗ハ本年度限り之ヲ終結セントス

鱈焚寄試驗

一、總說

本試驗ハ前年度ニ於テ高座郡水産會並茅ヶ崎漁業組合ニ囑託セシモ試驗ニ適當ナル機會乏シク遂ニ其成績ノ見ルヘキモノナカリキ

本年度モ亦引續キ同會並同組合ニ囑託セリ然ルニ同地方沿海ハ昨夏ヨリ鱈ノ來游特ニ稀少ニシテ其後若シ猶斯ノ狀態ヲ以テ進ムトキハ或ハ本年モ終ニ満足ナル試驗成績ヲ得サルノ虞アリ止ムナク同會並同組合ノ希望ヲ容レ試驗地ヲ三浦郡西浦村ニ移シテ同村秋谷漁業組合ニ囑託換ヘヲナシ之ヲ施行セリ

例年少クトモ冬春ノ季ハ北相模灣ニ於テ春黑鱈(以下鯤ト記ス)ヲ見ルモ本年ハ常規ヲ逸シ十二月末ヨリ真鱈來游セリ性敏ニシテ而海餘リニ澄ミ(十三、四等海)且網目細ニ過キタルハ網獲甚困難ヲ極ノタリ本年度出漁日數僅ニ五十六日ニシテ漁獲高通計一千四百九十一圓八十錢利益通計百五十三圓五十七錢四厘ニ過キス、焚寄ヲ試ミシコト五夜内一夜鯤五十杯(一杯ハ一斗ニ升入)ノ漁獲アリ其他集魚スルニ至ラス(焚寄教師ヲ靜岡縣駿東郡我入道ヨリ聘備セリ)成績偶々可ナラサリシト雖鯤ニ對シテ漁獲確實ナリシヲ以テ地方當業者ニ本漁業ノ概念ヲ得セシメマタ物與ノ機運ヲ與ヘ現ニ本漁業ヲ企畫經營セントスルモノ續出ノ好況ヲ呈スルニ至レリ

二、網具構造變改

- 一、全體網地縮結ハ新調當時三割三分ナリシモ使用中幾分伸ヒタレハ袖網部ヲ結ヒカヘタリ
- 一、浮子方緣網三號左節五十掛ハ小鯤ニ對シ幅廣キニ失シタルヲ以テ二十掛ニ減縮セリ
- 一、環網ハ沈子網ニ添ハセ網ノ型式ニ依リシヲ廢シ沈子網ニ長五寸計リノ蜘蛛手ヲ付シ之ニ環ヲ通シ乳ニ節ヲ嵌メ留ムルノ方ヲ採レリコレ取脱自在ナルヲ以テ多クノ場合ニ於テ便宜ナリ



三、集魚燈

プランチャード集魚燈千五百燭光五百燭光各一臺此外補助トシテアセチリン瓦斯燈二百燭光一臺百燭光一臺ヲ用キタリプランチャード集魚燈ハ點燈中動モスレハマントルニ陰影ヲ生シ又ハ赤焰ヲ吐キ長時間完全ニ光力ヲ持續スルコト困難ナリキコレ火口部内局ノ清潔ヲ缺キタルト及給氣ノ混亂セルトニ因ルモノト認メラレ修理ヲ施シタルモ未猶完全ト稱スルニ至ラザリキ

四、集魚狀況

焚寄五夜ノ内一夜集魚スルヲ得タリ各夜狀況如左

一月二十五日

月齡一、八

漁況

本月ハ未一回ノ漁獲ナキモ真鱈多少見ラル、ヲ以テ焚寄ヲ試ムルコト、シ午後三時出漁ス
焚寄教師トシテ靜岡縣我入道ヨリ聘備セル真野寅吉乘組メリ

火船

二隻内一隻プランチャードランブ千五百燭光一臺五百燭光一臺一隻アセチリン瓦斯燈二百燭光一臺百燭光一臺(以下火船ノ項畧ス)

漁場

秋吉沖五十尋立

海況

風波共ニ穩ニシテ五百燭光下透明七尋
午後六時消燈翌午前零時

點燈

點燈後間モナク真鱈ノ舟邊ニハヌルアリ後約一時間ニシテ見ユルモノナシ

一月二十六日

午前〇時ニ至リ北風強ク從漁ノ見込ナキヲ以テ作業ヲ停止シ歸港ノ途ニ就ク

月齡二、八

漁況

同前

漁場

秋谷沖七十尋立

海況

同前日

點燈

午後六時消燈午後十時

集魚

鮭ヲ燈下ニ投與シ明ニ集魚セルヲ知リ午後七時半投網鮭四十杯ヲ獲タリ

少許位置ヲ移シ再ヒ同様ニシテ午後八時半十杯ヲ獲タリ

既ニ見込少キヲ以テ午後十時消燈セリ

二月二十三日

月齡一、四

漁況

本月ニ入り真鮭ヲ主トシ鯉ヲ混シ連日當沖合ニ見ユ

漁場

本日日中ハ西風ノ爲使網ニ至ラス午後五時出漁ス

海況

秋谷沖四十尋乃至四十三尋立

湖西北西早ク風東北東弱シ

午後八時氣温八度水温一四度比重一、〇二四

五百燭光下透明六尋水色不良

點燈

午後六時半消燈午後十時半

當夜千五百燭光燈ハ最初半時間白光ヲ不發

後半時間可良ナリシモ後數秒間毎ニ數秒間宛ホヤ一杯ノ赤焰ヲ吐キマントル晴レス

集魚

各燈下數尾ノさより、いかノ外魚不集

二月二十四日

月齡二、四

漁況

本日午後二時ヨリ六時迄三回使網潮清クシテ魚入ラス僅カニ五十杯ヲ獲タリ夕方八田網多少ノ漁獲アリ午

漁場

後五時再出漁ス

海況

秋吉沖二十尋乃至四十五尋

午後八時氣温七度水温十四度比重一、〇二五

點燈

五百燭光下透明七尋水色稍良

午後六時消燈午後九時

千五百燭光燈最初マントル曇リ半時間ノ後稍晴レタルモ燭光極メテ低シ漕行中自然消ユ再三點燈シタルモ

遂ニ可良ナラス

いか、さよりノ外來ルモノナシ

二月二十六日

月齡四、四

漁況

本日秋谷前六尋乃至十二尋立ニ於テ薄キセリ(群性)多キモ潮澄ミ網ヲ打ツヤ忽然トシテ消散シ漁獲シ難シ

漁場

八田網日暮出漁セシモ漁獲ナクシテ歸ル本日五十尋立ニ於テいるか群レ居リシト云フ

海況

秋谷沖十尋乃至二十五尋立

點燈

北風強波高シ

午後六時消燈午後八時

集魚

千五百燭光燈不用

鮭ヲ併用セシモ鮭更ニ不見

鮭焚寄ニ關シ教師眞野寅吉靜岡縣内浦灣ニ於テ得タル經驗中參考ニ資スヘキ事項ヲ摘録セム

一、鮭晝間十尋立ニ在レハ日暮頃八尋立ニ入り暫時ニシテ十、二十尋立ニ漸次其沖合ニ退ク

- 二、暗夜ニシアレハ集魚ニ晴曇ヲ問ハス
- 三、潮濁ルトモ敢テ火ニ付カサルニアラス只鯧ノ深淺多少ヲ測ルニ難シ
- 四、拂曉、日没及夜ノ暖キ時ハ鯧水面ニハネ易シ
- 五、百、二百燭光ノ小燈ト雖大群ヲ付クルコトアリ然レモ近ニ大燈來ラハ奪ハル
- 六、宵ニ付キタル鯧ハ一挺位ニテ舟ヲ移スモ去ラスシテ朝ニ至ルヘシ但通リ鯧ハ然ラス
- 七、網ハ燈ヲ圍ミ潮ヲ受ケテ張ル、二重潮ナラハ強キニ從フコト言フ俟タス
- 八、鯧、鯖ノ外、いしもち、めじ、いなだノ大群付クコトアリ

五、使網回数ト漁獲回数

左表ノ示スカ如ク四、五、六月ノ頃ハ真鯧ニアラスシテ鯧ナリシヲ以テ隨テ漁獲回数ノ割合ハ高カリシモ一月ニ入り鯧少ク真鯧多クシテ甚シク此割合ヲ低下セリ然レトモ此割合ヲ以テ鯧巾着網ノ真鯧ニ對スル標準トスヘキニアラス。網目ノ不適當、作業ノ不熟練ニ因ル所アレハナリ

使網漁獲各回数割合表

月別	使網回数	漁獲回数	同上割合	漁獲		
				鯧	真鯧	其他
大正五年	計 一四	計 一四	一〇〇	二三	五杯	
四月	一七	一七	〇〇	四〇	杯	
五月	二一	一八	八六	二七	杯	
六月	二六	二一	八〇	四〇	杯	
計	七六	二二	二八	四〇	杯	
大正六年	計 二一	計 二一	一七	八四	杯	
一月	二二	二二	一〇〇	八四	杯	
二月	六二	二七	四四	四七	杯	

六、魚價

四、五月ニ於ケル鯧ハ鮮食ニ適良ナリシノミナラス煮乾鯧トシテ上等ナリシヲ以テ價格高カリシモ六、七月ハ恰モ雨滋ク總テ乾製不能ノ爲メ甚シク廉價トナリ一、二、三月ノ真鯧亦用途極テ狭ク價著シク低カリキ

魚價表

計	一五	一六	一四〇	一五四	一八	二五〇
計	八九	三五	〇、三九	四七九	一、九〇三	八

月別	平均價額		最高價額	最低價額
	提	真		
四月	〇九五〇	〇三〇〇	一〇〇〇	〇八五〇
五月	〇三〇〇	〇三〇〇	〇五〇〇	〇三〇〇
六月	〇二〇〇	〇二〇〇	〇三〇〇	〇二〇〇
七月	〇二〇〇	〇二〇〇	〇三〇〇	〇二〇〇
八月	〇二九〇	〇三三〇	〇四八〇	〇二八〇
計	〇二九〇	〇三三〇	〇四八〇	〇三〇〇

七、收支計算

漁獲前述ノ如カリシヲ以テ利益殆トナク亦本漁業經濟ノ標準トスルニ足ラサルナリ

- 一、收入金貳百四拾四圓〇六錢也 漁獲高
- 一、支出金貳百四拾七圓五拾錢也 漁夫賃

一、損失金參圓四拾四錢也

秋谷漁業組合ノ分

一、收入金壹千貳百四拾七圓七拾四錢也

一、支出金壹千〇九拾圓七拾貳錢六厘也

一、利益金百五拾七圓壹錢四厘也

漁獲高及雜收入

漁夫賃、舟賃、網具修理費其他諸費

鯛曳網試驗

一、總說

本漁具カ鯛漁ニ適當セルコトハ既ニ前年來試驗者ノ皆齊シク認ムル所ナレトモ未タ經濟上有利ナル漁業トスルニ至ラス
 今日本試驗ノ經濟上有利ナラサルハ主トシテ魚群ノ薄キニ因ス從來ノ成績ニ鑑ミレハ一週間一回使網、一回漁獲高二十圓ニ達
 セサレハ收支相償ハス然ルニ實際魚群薄クシテ一週間二回以上ノ使網ハ徒勞ニ屬シ而モ平均一回二十圓以上ヲ獲ンコト困難ナ
 ルカ如シ然レトモ舊來ノ鯛網ノ如キ數年目ニ周リ來ル豊漁ニ依テ初テ年々ノ收支ヲ調節平均シ營業シツ、アリシモノナレハ本
 網カ從前ノ網ニ比シ効力並ニ經濟上優良ナルヲ以テ之ニ代ルヘキモノナルヲ信シ一ニ魚群豊饒ノ歲ニ遭會シ本網ノ能力ヲ十分
 發現センコトヲ期待シツ、アリ

一、試驗ノ組織

縣下足柄下郡吉濱村橋本敬三並中郡大磯町波多野庄左衛門ニ試驗ヲ囑託シ本場ハ網具一式ヲ負擔シ、被囑託者ハ漁船、漁夫、運
 搬、漁具ノ修繕、保管ノ責ニ任シ漁獲物賣拂代金ノ百分ノ十ヲ本場ヘ納付スルコトト定メラレタリ

一、網具構造使用法

前年度ニ相異ルコトナシ漁夫ハ普通二十二人ヲ要ス

一、收支計算

吉濱ノ分

一、收入金一、一、二、三五〇

漁獲高(使網一回平均一八、七二五)

一、支出金二二〇、四五〇

內譯 七三、五五〇

三、九〇〇

二二、〇五〇

九、四五〇

七、三五〇

二、八〇〇

一、三五〇

八、一〇〇

大磯ノ分

一、差引損金

一、收入金

一、支出金

內譯 二一、〇〇〇

〇、七五〇

五、五〇〇

二〇、〇三五

一、差引損金

月日	使網時間	天候	潮流	投網場	水深	數量	價	網	格	其他ノ	數量	價	格	總計價格	備考
四、一九	自午前八時至午後三時	晴	南風	極緩	二二尋	一三〇尾	三七	四一	二、三二〇	四九、五〇〇				網價二百三十掛	
四、二三	自午前九時半至午後四時半	晴	東南風	極緩	二二尋	一一〇尾	二〇	四	〇、九八〇	二一、六五〇				網市場ニ登ニシテ價廉	
五、二六	自午前九時半至午後四時半	晴	東南風	極急	二二尋	二一尾	三	〇	〇、六二〇	四、五〇〇				網船小ナリ價百五十掛	
五、二九	自午前九時半至午後四時半	晴	無風	極急	二二尋	四一尾	八	一五〇	三、六〇〇	一一、七五〇				同百五十掛	
五、二九	自午前九時半至午後四時半	雨	東風	極緩	二二尋	五六尾	一四	九六〇	〇、七九〇	一五、七五〇				同百八十掛	
九、六	自午前九時半至午後四時半	晴	南風	極緩	二二尋	二〇尾	四	八〇〇	四、四〇〇	九、二〇〇				同二百四十掛	
七、一〇	自午前七時半至午後二時半	晴	東風	極緩	三〇尋	〇尾			二、六九五	二、七九五					
七、二九	自午前七時半至午後二時半	曇	東風	極急	三〇尋	〇尾			五、六七〇	六、四二〇					
以上大磯ニ於テ二回					二尾	〇、七六〇			八、三六五	九、二一五					

一、差引損金

一、收入金

一、支出金

內譯 二一、〇〇〇

〇、七五〇

五、五〇〇

二〇、〇三五

一、差引損金

鯉節製造傳習

一、總 說

本縣ニ於ケル鯉節製造ノ適地ハ原料集散ノ關係上足柄下郡小田原町及三浦郡三崎町ヲ推スヘク而シテ小田原町ニ於テハ大正二年度來三ケ年ニ亘リ製造法中主トシテ削法ニ關シ傳習ヲ施シ良好ナル成績ヲ得タルヲ以テ本年度ヨリハ更ニ三崎町ニ於テ製造法ノ全般ニ亘リ之カ傳習ヲ施行シタリ

元來三崎町ハ城ヶ島ヲ南ニ控ヘ其ノ位置鯉漁場ニ近キノミナラス天然ノ良港ヲナシ多數漁船ノ碇泊ニ便アリ故ニ鯉漁期ノ開始セラル、ヤ本縣、千葉縣及靜岡縣ノ鯉漁船相次テ入港シ漁獲物ノ集散極メテ盛ンナリ而シテ東京市場ヘノ鮮魚輸送機關ハ數隻ノ汽船ノミヲ以テスルカ故ニ漁獲物ノ增加ト運輸機關ノ不足トニ依リ魚價ノ高低激甚ナルヲ免レズト雖トモ舊來鮮魚輸送ノミヲ以テ本業トナスモノ多キカ故ニ鯉節製造カ魚價ノ高低ヲ調和シ延ヒテ漁船ノ入港ヲ誘引スルニ大ナル力アルヲ知ラス鯉節製造家僅ニ一戸ニ止マリ却テ他縣人ニシテ其ノ設備ヲ施シ之ヲ經營スルモノ續出ノ傾向ヲ生スルニ至リシハ誠ニ偶然ニアラサルナリ

傳習所ハ同町宮城ノ斯業熱心者養長谷川八五郎所有ノ鯉節製造工場ヲ以テ之ニ充テ外ニ製品乾燥用等ノ爲相當ノ空地七十三坪ヲ備ヘタリ

一、傳習期間及傳習生

傳習期間ハ六月一日ヨリ九月十五日迄トシ傳習生ハ當業者ノ子弟ニシテ年齡十七歲以上ノモノ十名ヲ募集シ獎勵ノ爲本場ヨリ一人一ヶ月ニ付四圓五十錢三崎町役場ヨリ三圓五十錢ノ手當ヲ支給シ傳習用器具類ハ總テ之ヲ貸與シタリ

一、傳習方法

傳習ハ每日午前七時ヨリ午後六時迄トシ原料處理ノ都合ニ依リテハ往々夜ヲ徹セシ場合モ之アリキ
教師ハ靜岡縣燒津町ヨリ招聘シタル小林熊吉ト本場製造主任ヲシテ之ニ當ラシメ製造法ハ籠ヲ燒津式ニ採リ原料ノ處理法、頭落シ法、身卸シ法、身割法、煮熟法、削法等ヲ順次傳習シ又時々成績品ノ品評、採點又ハ競技等ノ方法ニ依リ之カ獎勵ニ努メ其ノ進歩ヲ促セリ

一、傳習用原料

原料ハ八丈島、三宅島、大島其ノ他ヨリ釣漁ニテ獲タル生鯉ヲ購入シ用ニ供セシモ本年ハ未曾有ノ不漁ナリシカ故數量十分ナラサリシ
今傳習用トシテ處理シタル原料ノ數量及價格ヲ示セハ左ノ如シ

種 目	數 量	單 價	金 額	備 考
生 鯉	七、三〇〇	七二〇	五二五六	一尾平均七百文
同	四五、八〇〇	七三〇	三三四三五	一尾平均五百文
同	六四、〇〇〇	七〇〇	四四八〇〇	一尾平均六百五十文
同	七〇、〇〇〇	八〇〇	五六〇〇〇	一尾平均七百文
同	一八〇、〇〇〇	七五〇	一三五〇〇〇	一尾平均一、〇〇〇文
同	一〇、二〇〇	十貫二百文ニ付三八〇〇〇	三八〇〇〇	削法用 鯉節
計	生鯉三六七、一〇〇〇 鯉節一〇、二〇〇〇		三二二四九〇	

一、傳習成績

傳習生十名中家事ノ都合ニ依リ中途退所シタルモノ一名ヲ出シ其ノ他ハ病氣缺席ノ外孰レモ休ミナク熱心修業シタル結果傳習日數僅ニ百〇七日ニ過キサルモ其ノ成績見ルヘキモノアリ殊ニ生切り法并削法ニ於テ其技ノ進歩速カナルモノ多カリキ而シテ左記九名ニ對シ九月十五日夫々修了證書ヲ授與シ本年度ノ傳習ヲ終了セリ

修了者人名
三浦郡三崎町

木村 春吉
三壁 勝造
大山 健太郎
高松 萬吉
加藤 金太郎
鈴木 宗太郎
三橋 榮一
笹本 德太郎
湊 信

尙上記ノ如ク生徒ノ成績良好ナルヲ得タルノミナラス傳習所開設地タル三崎町ノ如キ鯉ノ集散活潑ナル土地ニ於テハ鯉節製造カ魚價ノ調和、魚類ノ處理、漁船ノ誘引、土地ノ繁榮上極メテ必要ナルコト一般ニ感知セシメ得タルハ最モ欣フ處ナリトス

一、傳習製品

傳習生ノ成績品ハ鯉節拾貫久入四樽本節拾貫久入參樽ニシテ之ヲ横濱市内ニ於ケル鯉節販賣業者ニ品評セシメタル上入札售賣シタルニ何レモ好評ニシテ左記ノ如キ相場ニ賣行タリ
一金參百七拾參圓貳拾九錢也

種	目	數	單	價	金	額	落札者氏名
魚	節	三九、八〇〇	圓	六三〇〇〇	二五〇七四〇		横濱市吉田町豊次郎
木	節	三〇、〇〇〇	圓	四〇五〇〇	一二一五〇〇		横濱市松影町房藏
削	屑	一、五〇〇	圓	〇七〇	一〇五〇		三浦郡三崎町長谷川八五郎
計					三七三二九〇		

アンチヨビー製造試験

一、總説

本試験ハ東京水産講習所、富山縣水産講習所及愛知縣水産試験場ト連絡シテ之ヲ施行シ製法ハ前年度試製ニ係ル「アンチヨビー」ニ對スル海外ノ品評并内地ノ嗜好ニ準據シ更ニ一段ノ注意ヲ加ヘテ製造ヲナシ製品ハ前年度ニ引續キ横濱市萬代町三忠商店ヲ經テ輸出ヲ試ミルト共ニ内地ノ嗜好ヲ喚起セントセリ
然ルニ本年度ハ近年稀ナル不漁ニ加フルニ適當ナル大形ノ原料極メテ少ナカリシ爲僅ニ拾參キロ入罐八個ヲ製シ得タルニ過キス從テ十分ナル試賣ヲナスコト能ハサリシハ勿論内地向製品ノ如キ毫モ之ヲ造リ得サリシハ甚タ遺憾トスル處ナリ尤モ本年度鯉ノ不漁ハ獨リ本縣下ノミニ止マラス各府縣概テ豐漁ノ地ナク愛知縣水産試験場ノ如キモ適當ノ原料ヲ獲ルコト能ハス遂ニ拾參キロ入罐僅々貳個ヲ製造シタルニ止マリキ

一、原料及其ノ處理法

鯉ノ體形小ナルモノハ「アンチヨビーペースト」用タルニ止マリ廣ク嗜好セラレス價格亦廉ナルヲ免レサルカ故ニ特大形ナルモノヲ撰別セリ處理方法ハ前年度ト異ナラス而シテ供用シタル原料ノ數量、大サ等左ノ如シ

- 一、原料尾數 約七千八百尾此重量四十五貫五百匁
- 一、一尾ノ大サ 體長四寸乃至四寸五分體重六匁内外

一、製造法

製造法ハ大概前年度ト同シキモ特ニ水分ト脂肪分トヲ十分ニ除去セムカ爲鹽漬樽ヲ比較的冷處ニ置キ加壓ハ徐々ニ増加スル様注意ヲ拂ヒ鹽漬樽ハ底ヲ二重トナシ外底ト内底トノ間ニハ適宜ノ木棧ヲ置キテ空處ヲ作り内底ノ上面ニハ數條ノ溝ヲ設ケ又

アンチヨビー製造試験

外底ニ接シテ木栓ヲ装置シ以テ魚體ヨリ分離スル水分ト脂油分トヲ排除セシムルニ便セリ
 用鹽ハ臺灣再製鹽ヲ撰ミ假鹽漬ノ期間ヲ二ヶ月トセリ之レ本年度使用ノ容器ハ後段記スルカ如キ弍力罐ニシテ鐵ヲ以テ密封ス
 ルモノナルカ故ニ輸送中温度ノ關係ニ由リ内容肉ニ變化ヲ起シ容器ノ破裂ヲ誘引スルカ如キコトアラサルヤラ慮リ熟成程度ノ
 完全ヲ計レルニ依ル

一、容 器

アンチロビー容器ニ對スル海外ノ品評ハ前年度報告ノ通ニシテ容量十二キロ半内外弍力罐ヲ用ユルコト安全ナリトノ注意ニ
 基キ本年度ニ於テハ高八寸八分口徑八寸二分内面ラツカード塗蓋内嵌メノ丸罐ヲ使用シタリ

一、肉詰上ノ注意并注入鹽水

鹽漬期日ハ大正五年七月十二日ニシテ其ノ後二ヶ月ヲ經過シ九月十四日弍力罐ニ肉詰メヲ行ヘリ
 肉詰上ノ注意ハ前年度ト大差ナキモ特ニ大小魚體ノ混合ヲ避ケ罐底ニハ高五分許ノ棧二本ヲ附シタル木蓋ヲ置キ其上ニ硫酸紙
 ヲ敷キ少量ノ撒鹽ヲ施シツ、肉詰メヲナシ最後ニ硫酸紙ヲ被ヒ其上ニ亦棧ヲ付シタル木蓋ヲ載セ一夜加壓ノマ、放置シ肉量ノ
 減セサルヲ見テ鹽水ヲ注入シ蓋ヲ嵌メ封鎖ヲ行フ

罐内ノ上下ニ木蓋ヲ置キタル目的ハ一ハ魚體ヲシテ絶ヘス上下ヨリ加壓ノ状態ニアラシメ輸送中動搖ニ因ル崩壞ヲ防キ一ハ罐
 ノ蓋底ト魚體トノ間ニ於ケル空間ニ十分鹽水ヲ注入シ置キ裝罐後魚體ニ滲透ノ爲鹽水ノ不足ヨリ生スル色澤、香味ノ損傷ヲ禦
 カントスルニアリ

注入鹽水ハ假漬ニ依テ得タル鹽水ヲ一旦沸煮濾過シ更ニ清澄ナル新鹽水ヲ加ヘタルモノヲ使用セリ海外ノ品評ニ依レハ注水鹽
 水ハ新シキ清澄ナルモノ、ミヲ要スルカ如キモ是等ハ假鹽漬期間ノ長短ニ由リ宜シク考慮ヲ加フルノ必要アリト信ス蓋シ鹽漬
 期間長キニ亘ルトキハ其鹽液中ニハ魚肉ノ滋味ヲ浸出含有スルコト多キヲ以テ肉詰後之ヲ放棄シ新ナル鹽水ヲ注入スルハ却テ

風味ヲ損スルコト尠ナカラサルヘキカ故ニ本年試驗ノ如ク鹽漬期間ヲ二ヶ月トナセル如キ場合ニ於テハ右ノ方法ニ據ルヲ經濟
 上并品質ニ及ホス影響上共ニ頗ル有利ナレハナリ現ニ假鹽漬液ノ沸煮濾過シタルモノヲ注入シタル本年度ノ製品ハ新ラシキ鹽
 水ノミヲ注入シタル前年度ノ製品ニ比シ其ノ原料ニ於テ劣レルニ拘ハラズ風味ニ於テハ反テ優リタリ尙注入鹽水ノ量ハ肉詰ノ
 巧拙ニ由リ多少アルハ勿論ナレトモ一罐凡ソ二合乃至五合トス

一、歩留及製品重量

製品ノ歩留ハ約六割二分ニシテ即チ生原料四十五貫五百匁ニ對シ製了品二十八貫二百匁ヲ得タリ但之ニ使用セル食鹽量ハ百二
 十斤トス而シテ製品一罐ノ平均重量ハ左ノ如シ

一、四貫五百匁 一罐平均重量

内

- 三貫五百匁 (約十三キロ) 平均魚肉重量 (一層三十五尾乃至四十尾宛二十)
- 三百四十匁 鹽及鹽水重量
- 二百十五匁 罐ノ重量
- 九十五匁 木蓋ノ重量

一、生 産 費

種 類	目 的	數 量	單 價	金 額	備 考
原 料	人 員	四五	五〇〇	三九〇〇	一斗桶十三杯一杯三十錢替一斗重量三貫五百匁一罐分四拾八錢七厘五毛
食 料	夫 給	一二	〇〇〇	二四〇〇	一罐分參拾錢
罐	費	八〇	三〇	二四〇〇	臺灣再製鹽一罐分四拾五錢
			七九〇	六三二〇	

本	蓋	一六	〇七五	十二〇〇	一罐分拾五錢
荷造運賃其他諸費	計			三〇〇〇	一罐分拾七錢五厘
合				二〇四二〇	一罐高り貳圓五拾貳錢貳厘五毛

一、輸出試賣

製品ハ厚四分ノ板ヲ用キテ造レル箱ニ四區劃ヲ設ケ各區ニ一罐宛一箱ニ四罐ヲ收容シ堅固ニ荷造ノ上二箱（八罐）ヲ三忠商店ニ托シテ大正五年十月ロンドンへ輸出シタリ然レトモ其ノ試賣結果ハ前年度輸出ノモノト共ニ年度内報告ニ接セサルヲ以テ本年度ヲ俟テ之カ報告ヲナサントス

鹹水養殖試験

本試験ハ大正二年度ヨリ繼續ノ事業ニシテ本年度ニ於テハ前年ニ引續キ車蝦、海鼠ノ蓄養及「サイマキ」黒鯛、鰯ノ養成試験ヲ施行セリ、試験ノ狀況左ノ如シ。

一、車蝦ノ蓄養

從來試験ノ結果ニ據リ諸般ノ事項漸ク明ラカニ成レルヲ以テ本年度ニ於テハ之等ノ點ニ一層周密ナル注意ヲ拂ヒ尙防寒ニ關スル設備ヲ施シテ少カラシメン事ニ努メタリ。

イ 蓄 養 池

使用池ハ一號池（三十二坪）二號池（三十三坪）三號池（三十四坪）ノ三面ニシテ何レモ巾二間半、長十三間内外ノ長方形ノ池ナリ。之等ハ「サイマキ」養成ニ使用セルヲ九月初旬「サイマキ」ヲ收納シテ別池ニ移シ、二號池ハ底砂ヲ一旦取り上ケ晒シタル後再ヒ敷キ入レ、三號池ハ舊砂ヲ取り上ケ新砂ヲ以テ之ニ代エタリ。各池共底砂ハ四、五寸層ニシテ水深ハ常時二尺餘ナリ。

ロ 種蝦ノ放養

種蝦ハ久良岐郡金澤村柴地先ニテ手繰網ニ依リテ漁獲セルモノヲ主トシ、同郡屏風ヶ浦村杉田附近及千葉縣富津産ヲ混ス大サハ個別ニ著シキ不揃ナク平均十三四匁ノモノニシテ購入價格平均一尾四錢八厘強ニ相當ス、何レモ九月二十二日ヨリ十一月七日ニ至ル間ニ放養セリ、放養總數四千四百二十五尾（五十九貫五百六十五匁）ニシテ各池別ニ坪當リ三十尾、四十五尾、六十尾ノ三通ニ規則正シク配置セリ。各池放養ニ關スル詳細次表ノ如シ。

放 養 表

池 別	面 積	放 養 時 日	放 養 量		同 上		平 均 休 重
			尾 數	重 量	尾 數	重 量	

池	飼	給	餌	日	數	池	飼	給	餌	日	數			
一	號	池	三十二坪	自十一月十四日	一、九二〇	二	號	池	三十三坪	自十一月十四日	一、四八五			
二	號	池	三十三坪	自十一月十四日	二〇、八二七	三	號	池	三十四坪	自十一月十四日	一、〇二〇			
三	號	池	三十四坪	自十一月十四日	一三、四一九	四	號	池	三十四坪	自十一月十四日	三〇			
計	池	三十四坪	自十一月十四日	七九、一三九	計	池	三十四坪	自十一月十四日	六三、一〇二	計	池	三十四坪	自十一月十四日	一三、一五

放養後ハ皆直チニ砂中ニ潜入シ其三十分ヲ經過シテ潜伏シ能ハサルモノハ不健全ナルモノナルニヨリ取上ケ魚商ニ返還セリ。

種蝦ヲ放養セル後ハ翌日ヨリ餌料トシテ蠟、乾コマセ、乾燥蟹ヲ給與セリ、給餌ハ夕刻ニ一回ニシテ蠟ハ生鮮ノ儘碎キテ、コマセ并蟹ハ水浸シトナシ投與セルカ蟹ハ餌付良好ナラス主トシテ蠟并コマセヲ使用セリ。二、三號池ハ放養早カリシ爲餌付良好ニシテ盛ニ採餌セルモ一號池ハ放養遅レタル爲充分ニ給餌スルノ時期ヲ逸シタルノ憾アリ、十月下旬迄ハ盛ニ採餌セルモ十一月ニ入りテヨリ漸ク蝦ノ運動活潑ヲ缺キ採餌量モ減少シ同月中旬ニ至リ水温低下スルニ及ンテ殆ント捕食セサルニ至レルヲ以テ十一月十五日ヲ以テ各池共給餌ヲ止メタリ、(此前五日間ノ平均水温十二度四分)

給餌表

月	別	餌料種類	給餌量	給餌日數	池	給餌量	給餌日數	池	給餌量	給餌日數	池
九	月	蠟	五斗二升	八日	一	五斗七升	十四日	二	二斗六升八分	六日	三
十	月	蠟	一斗九分	八日	一	六斗〇分	十四日	二	一斗六升八分	十四日	三
十	月	蠟	五斗八升	十日	一	五斗七升	十四日	二	五斗四升	十日	三
計	月	蠟	一石一斗九分	二十三日	一	一石二斗九分	三十六日	二	一石二斗二升	四十二日	三

〔備考〕計欄ノ日數ハ蓄養期間中ノ總給餌日數ニシテ一日二種以上ノ給餌ヲナスコトアルヲ以テ種別日數ノ計ト一致セスニ蓄養中ノ概況

本年度ハ種蝦ヲ附近ニ求メタルト放養時注意シテ不健全ナルモノヲ除去セルトニ依リ運搬中損傷ヲ被ムリ又ハ疲弱セルカ爲放養後ニ至リ斃死セルモノハ僅少ニシテ放養ヲ始メテヨリ終了ニ至ル間ニ於ケル斃死者一號池十八尾、二號池四十八尾、三號池三十八尾ナリ。

放養後ハ前記ノ通り給餌ヲ爲シ、尙日々一回乃至二回潮ノ干満ヲ利用シテ池水ノ交換ヲ行ヒ比重并水温ノ調節ヲ計レリ。今蓄養期間中各月ノ概況ヲ述フレハ十月中水温ハ平均十六度八分池水比重一、〇一九三四ニシテ蓄養蝦ハ元氣良ク採餌亦旺盛ナリ、脱皮時他ノ蝦ニ共食セラレ死ニ至レルモノ少數アリタル以外異常ナシ。

十一月ハ中旬ニ於テ恰モ小潮時ナリシト海水比重低下セルトニ依リ數日間池水ヲ交換スル能ハス稍斃死者多キヲ加ヘ特ニ二號池ハ底質不良ナルカ爲連日十尾内外ノ死者ヲ出セルモ天候快復シ海水鹹度高マルカ充分ニ池水ノ交換ヲ行ヒ得タルヲ以テ順境ニ復スルヲ得タリ、然レトモ本月中旬以降水温十一度内外ニ下降セルヲ以テ運動活潑ナラス十五日ヲ以テ給餌ヲ止メタリ。

十二月ニ入りテヨリ水温ハ六、七度乃至十度ニシテ蝦ハ殆ント冬眠状態ニ入り脱皮者ハ折々之ヲ認ムルノミ。經過ハ概シテ良好ナリシモ下旬ニ至リ水温四、五度ニ低下スルニ及ンテ斃死數増加シ就中二號池ハ底砂堅クシテ蝦ハ潜伏ニ自由ナラサルヲ以テ寒氣ノ被害ヲ受ケ易ク三池中成踏最モ不良ナリ依ツテ二號池分ハ收納時期ニ關スル得失ヲ試驗スルノ目的ヲ兼テ十二月卅日池替ヲ行ヒ悉皆收納ノ上售賣セリ。

一月二日少シク降雪アリ其後寒氣漸ク酷シク水温愈々低下セルヲ以テ潜伏ニ堪エスシテ砂中ヨリ匍出シ又ハ僅カニ頭部ノミ擡クルモノ毎朝數尾アリ之等ハ再ヒ潜入ノ氣力ナク其儘凍死ニ至ル可ヲ以テ努メテ取り上ケ售賣セリ。一月十八日防寒ノ爲風避ヲ施シ尙二十六日ヨリ夜間ハ暖爐ヲ燃焼シテ水温ノ低下ヲ防クニ努メタリ。斯クテ最モ危険ナル時期ニ入り市場ニ於ケル車蝦ノ價格ハ著シク騰貴セルモ防寒設備ニ關スル試驗ヲ行ハシカ爲蓄養ヲ繼續シ三月下旬ニ及ヒ池替收納セリ、此間一月中水温ハ二度乃至五度ニシテ各月中最低ヲ示シ、二月ハ多クハ四度乃至八度ニシテ一月ニ比シ高カリシモ最モ多ク疲弱又ハ斃死蝦ヲ出セリ、コレ蓄養期間漸ク長キニ亘リ體力衰退セル爲寒氣ニ對スル抵抗力減少セルニ因ル可シ。

蓄養中各月ニ於ケル疲弱及斃死蝦數左表ノ如シ

池別	月別		疲弱死	死	疲弱死	死	疲弱死	死	疲弱死	死	疲弱死	死	疲弱死	死	計
	十	十一													
一號池	九	四三	二五	七三	四四	二四一	六九	六八二	六一	二二六					一、一六五
二號池	四九	一一二	二八	一四一	六五	九〇	四六	一四〇	四一	一〇六					二五三
三號池	一八	一一一	一一	二六	一九	九〇	四六	一四〇	四一	一〇六					三七三
計	七六	一六六	六四	二四〇	二二八	三三一	一一五	八二二	一〇二	二二二					四八五

〔備考〕「疲弱死」トセルハ砂上ニ匍出又ハ頭部ノミ現ハシタルモノヲ收納販賣セルモノニシテ「死」ハ售賣ニ適セザリシモノナリ

ホ 防寒設備

車蝦ノ價格ハ二月下旬ヨリ三月ニ掛ケテ最モ高騰スルヲ以テ之カ蓄養ニ依リ收利ヲ得ンニハ此時期迄蓄養スルヲ最上トス然レトモ一月、二月ハ最モ水温低下シ、蓄養蝦ニ取リテ亦最モ危険ナルノ時トス故ニ水温ノ低下ヲ防キ歩減ヲ少カラシメンカ爲メ本冬ニ於テ一號池ニ防寒設備ヲ施シ之カ設備ナキ三號池トノ比較ヲ試ミシカ放養量、底質越冬前ニ於ケル營養狀況ニ付キ兩池ニ著シキ差異アリシカ爲効果ヲシテ明瞭ナラシムルヲ得サリシハ遺憾ナルモ多少水温ヲ高ムルヲ得ルヲ確メタリ、而シテ諸種ノ點ニ於テ不良ナル状態ニアリシ池カ前表ノ程度ニ止メ得タルハ本設備ニ依ル處アル可シト思惟ス、設備ノ概要并兩池水温左記ノ如シ

(設備)

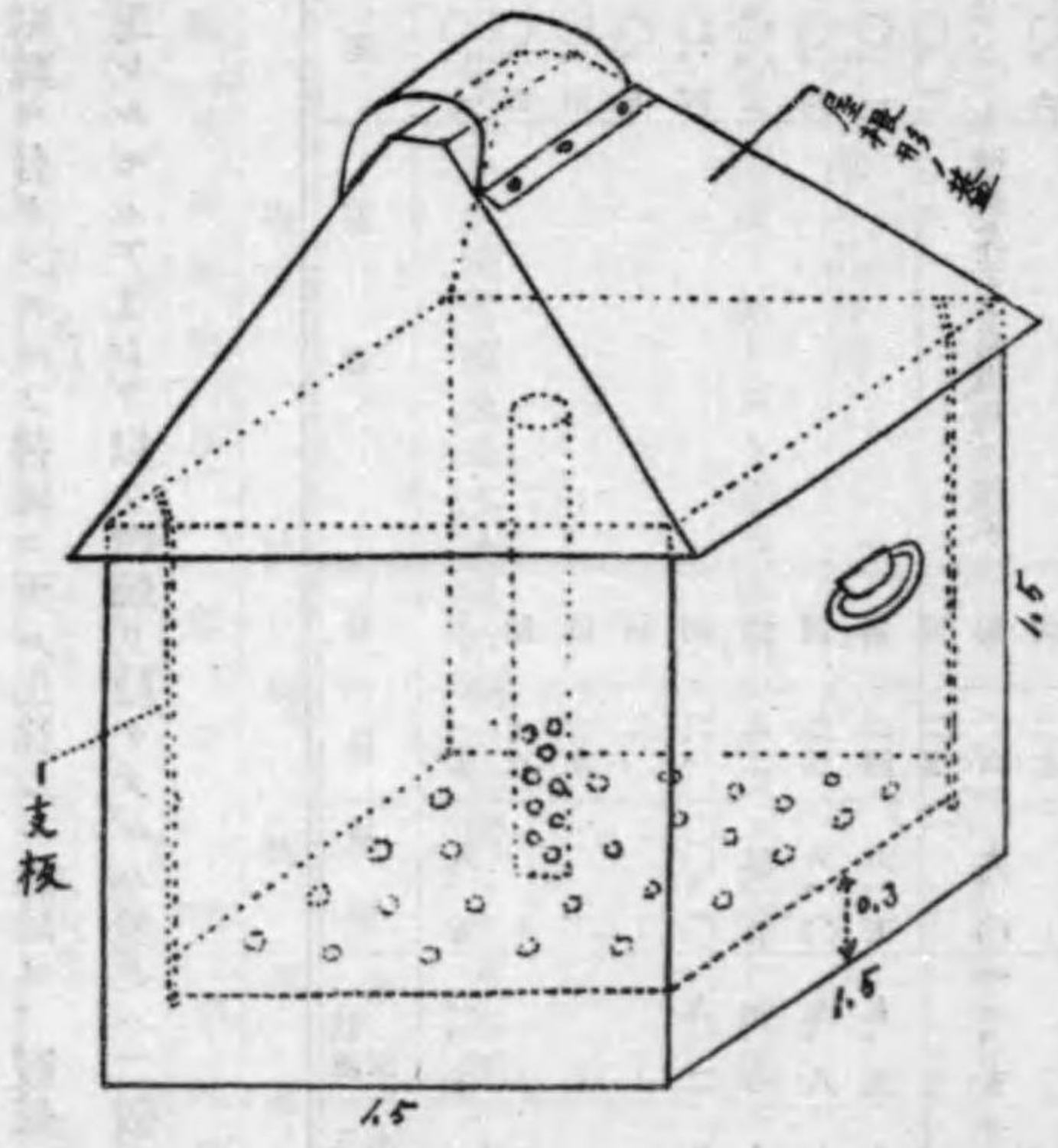
(イ) 風避

池ノ北側ニハ高サ一間ノ簀ヲ建テ之ニ葦ヲ張り詰メ、東西二面モ同様簾ニテ風ヲ避ケ南面ハ三尺間隔ニ小杭ヲ打込ミ上部ニ大拔ノ横木ヲ渡シ簾(三尺巾)ヲ連結セル風避ヲ之ニ取リ付クル様ニナス而シテ南面ノ風避ハ夜間ノミ取付ケ晝間ハ取去リテ水面ニ日光ヲ受ケシム

(ロ) 防寒暖爐

尙池中ニ箱暖爐(本場ニ於テ假ニ箱暖爐ト稱ス)三個ヲ浮ヘ終夜粗殼ヲ燃焼シテ水温ノ低下ヲ防クニ供セリ暖爐ハ一尺五寸立方ノ「トタン」製ノ箱ニシテ底ヨリ三寸ノ高サノ位置ニ小孔ヲ穿テ「ブリキ」板ヲ設ケ「ロストル」ニ代ユ、此板ハ箱ノ相對スルニ隅ニ於テ巾二寸ノ「ブリキ」板ヲ上縁ニ引掛ケ下部ヲ少シク曲ケタルモノニ依リテ支フ、此支板ニ依リテ二隅ニ生スル間隙ハ通風路ノ用ヲ爲サシム、尙中央部ニハ徑二寸ノ有孔煙突(取付、取ハスシテ自由ナラシム)ヲ建テ此周圍ニ燃料タル粗殼ヲ充填ス、上部ニハ通風孔ヲ有スル屋根形ノ「ブリキ」蓋ヲ附ス。暖爐ハ上面ヨリ兩側ニ二ヶ所ニ於テ八番線針金ヲ掛ケ廻シ兩側ニ於テ針金端ニ房州石ヲ結ヒ付ケテ暖爐ヲ上部ヨリ三寸位ノ位置迄水中ニ沈マシム。

箱暖爐圖



三號池	四七五	五九、五三〇	一一、五三	三七三	二六、六八〇	七、一五	八四八	八六、二〇〇
計(平均)	二、〇二〇	二一六、〇四〇	二一〇、七〇〇	一、七九一	一一七、〇四〇	(六、八二)	三、八一	三三三、〇八〇

次ニ生産費中種蝦代及餌料代ヲ池別ニ表示スレハ次ノ如シ

種蝦代	池別	尾數	金額	同上坪當
一號池	一、九二〇	一〇四、一一〇	三、二五三	三、二五三
二號池	一、四八五	六九、七八〇	二、一一四	二、一一四
三號池	一、〇二〇	三九、四九〇	一、一六一	一、一六一
計	四、四二五	二一二、三八〇	二、一四五	二、一四五

餌料代	池別	餌料種類、數量	金額	同上坪當
一號池	網	一貫一石一斗	三、〇三〇	九、四七
二號池	網	一貫二斗九升	四、六八〇	一四、一八
三號池	網	一貫七斗二升	八、五一〇	二五、〇三
計	網	三貫七斗二升	一六、二二〇	一六、三八

收納蝦代金ト生産原料費ノ差額次表ノ如シ

池別	收納蝦代	同上坪當	種蝦代	餌料代	同上坪當	差引殘額	同上坪當
一號池	一四、九〇五	四、四六五	一〇四、一一〇	三、〇三〇	三五、七六五	一、一一七	
二號池	一〇三、九七五	三、一五〇	六九、七八〇	四、六八〇	二九、五一五	〇、八九四	
三號池	八六、二〇〇	二、五三五	三九、四九〇	八、五一〇	三八、二〇〇	一、一二三	
計	三三三、〇八〇	三、三六四	二一一、三八〇	一六、二二〇	一〇四、四八〇	一、〇五五	

即三池ヲ平均スルニ一坪當生産額ハ三圓三六錢強ニシテ種蝦并餌料代ヲ控除セル殘額ハ坪當リ一圓五錢五厘ニ相當ス但シ尙支出トシテ地代人夫賃金其他諸種ノ費用ヲ要シ且本年ハ平年ニ比シ蝦價格騰貴セルヲ以テ悉ク此標準ニ依ルヲ得サル可シト雖經濟上周密ナル注意ヲ拂ヒタランニハ相當純益ヲ收メ得ルノ見込アリト云フヲ得可シ

(二) サイマキノ養成

試驗ハ二回ニ分チ第一回ハ五月下旬ニ始メ九月月上旬ニ終リ第二回ハ九月中旬ニ始メ十二月下旬ニ終レリ第一回ハ養成ヲ主トシ第二回ハ蓄養ヲ主トス

第一回

イ 養成池

池ハ一號池(三十二坪)、二號池(三十三坪)、三號池(三十四坪)、四號池(百坪)、五號池(百坪)ノ五面ニシテ各池共底ニ細砂ヲ約四寸層ニ敷キ均セリ水深ハ一、二、三號池ハ平均二尺五寸、四、五號池ハ二尺ニシテ水路并池間ハ巾三尺ノ堰枠ニ依リテ連絡シ池水ノ交換ニ供ス、堰枠ハ各池二個トス

ロ 種蝦放養

種蝦ハ總テ千葉縣富津産ニシテ大サ一、五匁乃至四匁平均二、六六匁ニシテ平均單價七厘ニ相當ス、五月廿七日ヨリ六月十日迄ニ總數七千四百十尾(十九貫四百十一匁)ヲ購入放養セリ、各池放養ニ關スル詳細次表ノ如シ

池別	面積	積	放養月日	尾數	重量	同上坪當	坪當	平均体重
一號池	三二坪	同	五月二十七日	一、一三八	四、一八五	三五、六	一三〇、八	三、六七
二號池	三三坪	同	同上	九四八	三、四四四	二八、七	一〇四、三	三、六三
三號池	三四坪	同	同廿七日、廿一日	九〇三	二、三七九	二六、六	七〇、〇	二、六三
四號池	一〇〇坪	自五月廿一日	同上	三、〇〇六	六、一三三	三〇、〇	六、一三	二、〇四
五號池	一〇〇坪	自五月廿一日	同上	一、四一五	三、二七〇	一四、二	三三、七	二、三一

但シ右ノ中一號池五〇尾、二號池三〇尾、四號池一〇五尾ハ負傷ニ依リ放養後斃死セリ

ハ 給餌

餌料トシテハ干燥「コマセ」ヲ主トシ三號池ニハ飼ヲ併用シ又「コマセ」缺乏セル時ハ鯨節煮殻ヲ使用セルコトアリ、飼ハ介殼付ノ儘碎キテ「コマセ」ハ一夜水漬シトナセルモノヲ給與セリ、給餌ハ毎夕一回トス各池給餌量給餌日數次表ノ如シ

月別	餌料ノ種類	一號池	二號池	三號池	四號池	五號池
五月	コマセ	八〇尾	七〇尾	四〇尾	三二〇尾	一五五尾
六月	コマセ	三三四尾	二二〇尾	一七〇尾	六六六尾	三三九尾
七月	コマセ	五九〇尾	三三〇尾	二九〇尾	四八〇尾	二七〇尾
八月	コマセ	六六〇尾	四四五尾	九八〇尾	一〇七〇尾	六六二尾
九月	コマセ	五〇〇尾	一貫二〇〇尾	七五〇尾	二〇七〇尾	二貫七〇〇尾
計	コマセ	九貫八七〇尾	一貫〇五〇尾	三貫一〇〇尾	二〇貫六三〇尾	一四貫四三〇尾
	鯨節煮殻	四五〇尾	二二〇尾	一五〇尾	四八〇尾	二七〇尾

ニ 飼養中ノ概況

放養後ハ一號池體重ノ二十分ノ一、二號池三十分ノ一、三、四、五號池ハ二十五分ノ一ヲ一日ノ標準量トシテ給餌セルカ六月上旬ヨリ漸ク餌付良好トナレリ、中旬前半ハ大潮時ニシテ海水ノ注排自由ナラス給餌ヲ加減セルモ其後半ニ及ヒテハ採餌益々盛ントナレリ、下旬ニ於テ再ヒ降雨續キテ比重一、〇〇六五ニ低下シ池水甚シク惡變セルヲ以テ給餌ヲ控ヘ事無キヲ得タリ、尙池中ニ青のり屬ノ水藻繁茂夥シク常ニ之カ除去ニ努メタリ、七月ハ上旬小潮時ニシテ池水交流充分ナルヲ得タリシ爲給餌量ヲ減シタルモ水温漸ク上昇シ硅藻類ノ發生旺盛ニシテ池水惡變シ十一日朝五號池ヲ除ク外各池多數ノ斃死者ヲ出セリ。中旬ハ概シテ順當ニ經過セルモ月末ニ至リテ降雨打續キ金澤海水ハ一、〇〇三五ニ低下セルノミナラス八月一日ニ赤潮現ハレ引續キ存在

シテ同五日夜ニ及ンテ漸ク消滅ヲ見タル狀況ニテ池水ノ交換ヲ行ヒ得ザルコト旬日ニ及ヒ爲メニ各池其日々斃尾宛ノ斃死ヲ出セリ。尙同十日ヨリ十四日ニ至ル迄降雨ノ爲海水比重低下シ池水ヲ交換スル能ハス爲メニ斃死者多ク八月中全池ヲ通シテ死體ヲ發見セルモノ、ミニテ七百十二尾ニ及ヘリ。

次ニ九月三日午前六時飼養「サイマキ」ハ各池其水面ニ浮出シ所謂「鼻上狀態」ニ陥リシヲ以テ水ノ交換ニ努メタルモ尙九百四十八尾ノ斃死ヲ出セリ、此朝氣温二十八度無風ニシテ露深カリシ爲氣壓ノ關係上水中酸素ノ缺乏ヲ來セルニ因ル可シ、九月一日ヨリ十二日ニ至ル間ニ於テ各池ノ池替ヲ行ヒ「サイマキ」ヲ收納セリ。

ホ 成績

項	池別	一號池	二號池	三號池	四號池	五號池	計
放養數		一、一三八尾	九四八尾	九〇三尾	三、〇〇六尾	一、四一五尾	七、四一〇尾
損傷ニ依リ放養後直ニ死シタルモノ		五〇尾	三〇尾	一〇五尾		一八五尾	
飼育中斃死		五三〇尾	三三六尾	六四九尾	四八八尾	三一五尾	二、三三八尾
九月初旬池替時		二〇三尾	三〇二尾	一九七尾	四六四尾	一四二尾	一、三〇八尾
收納數		三五五尾	二八〇尾	五七尾	一、九四九尾	九五八尾	三、五九九尾

即放養時損傷ニ基キ斃死セル百八十五尾ハ全ク飼育セサルモノナルニ付放養數ヨリ除去スレハ飼育ヲ續ケタルハ七千二百二十五尾ナリ、此數ニ對シ飼育中ノ斃死數ハ計二千三百十八尾ニシテ其割合三二%ニ相當ス、次ニ收納數ハ千三百〇八尾ニシテ眞ノ放養數ニ對シ一八、一%ナリ、而シテ残りノ四八、九%即三千五百九十九尾ハ不明數ニシテ飼育中ニ於ケル歩減ナリ、之カ成績ヲ池別ニ比較スレハ各池ノ歩止リハ次ノ如クニシテ二號池成績稍良ク五號池ハ最モ不良ナリ。

各池歩止表

一號池	二號池	三號池	四號池	五號池
一八、六六%	三二、九%	二一、八二%	一五、九九%	一〇%

イ 使用池 池
 使用池ハ六號池(面積二百九十三坪)七號池(同三百三十七坪)ノ二面ニシテ兩池共水深平均二尺、六號池ハ三尺ノ深部約四十坪、七號池ニハ同約百五十坪アリ兩池ハ隣接シ其間ノ堤塘ニ一個并導水路ニ面シテ各一個ノ三尺巾堀割水閘ヲ有シ水ノ交換ニ供ス

ロ 種 魚
 種魚ハ當才カイズ、二才カイズ及三才黒鯛ノ三種ニシテ二才「カイズ」ハ前年度ヨリ繰越魚、當才「カイズ」及黒鯛ハ本年度購入セルモノナリ。四月當初ヨリ飼育セルハ二才并三才ニシテ當才「カイズ」ハ十月ニ放養セリ而シテ六、七號ノ兩池ハ飼育中ニ時々取上ケ放養換ヲナセルヲ以テ飼養尾數ハ終始一貫セス依ツテ飼育狀況ト共ニ順次述ヘントス
 第一期(自四月一日至六月十四日)

放 養 表

六號池二才「カイズ」 一、八一三尾 (前年度ヨリ繰越ニテ見込尾數ヲ以テ六號池ニ在池ノ儘越セルヲ以テ其數確實ナラス)
 七號池三才黒鯛 一一八尾 (金澤地先延繩流ヲ四月廿八日及五月七日購入ノ上同日放養、一尾平均五十五尾強)

放養後ハ餌料トシテ「カイズ」ニハ蠶蛹并「コマセ」ヲ黒鯛ニハ蠶蛹「コマセ」ヲ給與セリ蠶蛹ハ干蛹ニシテ一夜水漬トナセルモノヲ庖丁ニテ刻ミテ「コマセ」ハ水漬シトナシタルモノヲ其儘投餌シ蠶蛹ハ碎キテ給與セム。四月中「カイズ」ハ水溫漸ク高マルニ連レテ運動活潑トナリ常ニ池邊ヲ周遊シ餌付モ良好ナリ。
 五月ニ入りテヨリハ元氣益々旺盛ニシテ採餌モ亦盛ナリ、黒鯛ハ放養時ノ負傷ニ基キ斃死セルモノ十九尾ヲ出セルモ中旬以降斃死スルモノ無ク下旬ニ及ヒ音響ニ依リ稍餌ニ集マルニ至レリ、六月ニ入りテヨリ「カイズ」ハ益々採餌盛ントナリ黒鯛モ漸ク採餌スルニ至リシカ同月十四日六號池ハ池替ヲ行ヒ「カイズ」全部ヲ採捕セリ。七號池ハ池替ヲ行ハス次期ニ送レリ。
 六號池「カイズ」收納數ハ一、七一二尾(一三貫二七〇匁)ニシテ五月上旬ニ平均五匁強ナリシモノ八匁餘ニ成育セリ、此間ノ給餌量、給餌日數次表ノ如シ。

池 別	餌料種類	蠶		蛹		コ		セ		網	
		數	量	數	量	數	量	數	量	數	量
六 號 池	二才カイズ	二一貫四五〇匁		六十七日		一三貫三五〇匁		五十一日		一斗五升	
七 號 池	三才黒鯛					九貫七五〇匁		三十九日			三日

第二期(自六月十四日至九月九日)

池 別	種 別	尾 數	重 量	備 考	
				數	量
六 號 池	二才カイズ	一、四九七尾	一〇貫二〇〇匁	六月十四日池替後大形ナルモノヲ抜キテ直ニ再放養セリ。	
七 號 池	黒 鯛	三一〇尾見込	八貫五〇〇匁	池替ヲセス前期ニ引續キ飼育ス、六月十四日六號池ヨリ二五尾(三貫〇七〇匁)ヲ放養換ス	

給餌前同ト同様ニテ飼育ヲ繼續ス、七月ニ入りテヨリ兩池共専ラ蛹ヲ給與シ「カイズ」ハ異常ナク採餌盛ニ成育良好ナリ黒鯛ハ六月上旬ニ於テ漸ク音響ニ依リ餌付タルモ本月ニ入りテヨリ採餌常ニ思ハシカラス八月中モ異事ナク飼育ヲ續ケ九月九日六號池ハ池替ヲ行ヒ一旦全部ヲ收納セリ。收納尾數一、三四九尾重量二八貫〇八二匁ニシテ外ニ池替ニ際シ斃死セルモノ七九尾一貫六〇九匁アリ、即此期間ニ於ケル成績次ノ如シ。
 但シ七號池ハ池替ヲ行ハス次期ニ亘レリ。

六 合 池

項	放 養 時	飼 育 中	斃 死	收 納	減 増	重
數	一、四九七尾	六〇尾	九尾	一九貫四九七匁		
量	一〇貫二〇〇匁	六〇尾	二九貫六九七匁	一九貫四九七匁		

〔備考〕 但收納一、四二八尾二九貫六九七匁中七九尾一貫六〇五匁ハ池替ニ際シ暑氣激シカリシ爲斃死セルモ茲ニハ生産ノ中ニ入レタリ。
 之ニ依リテ見レバ尾數ニ於テ九尾ヲ減少セルモ重量ハ約三倍ニ増加シ六月中旬平均六匁六分ノモノ收納時平均二〇匁八ニ成育セリ。

此間ニ於ケル給餌狀況左記ノ如シ。

池別	種別	種料種類		飼		コ		セ	
		量	日	數	量	日	數		
六號池	當オ「カイズ」	五一貫九〇〇匁	六十二日	六十二日	七貫一九〇匁	十六日	十六日		
七號池	二オ「カイズ」	二九貫八〇〇匁	六十二日	六十二日	四貫九五〇匁	十六日	十六日		

第三期(自九月九日至三月下旬)

放養表

池別	種別	尾	數	重	備考
六號池	當オ「カイズ」	二五九尾	一貫八二〇匁	十月三日ヨリ同十一日ニ至ル間ニ購入ノ上放養	
六號池	二オ「カイズ」	五四二尾	一一貫五四八匁	九月九日池替ノ上一部ヲ七號池ニ移シ此尾數ヲ直チニ再放養ス	
七號池	黒オ「カイズ」	二九三尾	不	池替ヲ行ハス飼育ヲ繼續ス	
七號池	二オ「カイズ」	八〇七尾	一六貫五四四匁	九月九日六號池ヨリ放養替	

九月九日以上ノ如ク整理ヲ行ヒ飼育ヲ續ケタルカ池替時負傷ニ依リ放養後斃死セルモノ少カラス、九月中六號池ハ二〇五尾、七號池ハ三十六尾ヲ出セリ、餌料ハ前回ニ引續キ專ラ飼ヲ給與シ、十一月ニハ兩池共飼ヲモ給與セリ。

十、十一月中經過ハ順當ナリシモ漸次水温ノ低下ニ從ヒ採餌量減少セルヲ以テ十二月九日給餌ヲ止メタリ、而シテ此等黒鯛ハ價格騰貴ノ時ニ於テ恰モ虎疫ノ流行スルアリタルヲ以テ售價スルヲ得ス途ニ越冬セシムルノ餘儀ナキニ至レリ、十二月中ハ水温ハ三度乃至二度平均七度六四ニシテ經過良好一尾ノ斃死者ヲモ出サ、リシカ一月二日少シク降雪アリテ水温二度ニ低下シ以後引續キ水温四度内外ナリシヲ以テ同五日ヨリ毎朝多數ノ疲弱者ヲ出シ之等ハ日中水温上昇スルニ及ンテ快復スルモノアルモ多クハ斃死ニ至ル可ヲ以テ努メテ取り上ケ售價セリ。殊ニ同二十二日、二十三日ハ午前八時觀測ニ於テ二度五分、二度ナリシヲ以テ未明ニ於テハ一度内外ニ低下セル可兩日ニテ六號池ハ一五一尾、七號池ハ二三〇尾疲弱又ハ斃死ヲ出セリ、斯クテ寒氣ハ日ニ加ハルヲ以テ努メテ池水ノ交換ヲ行ヒシモ水深淺ク夜間ハ著シク水温低下スル爲被害ヲ防ク能ハスシテ本月中

ニ其大部分ヲ斃シ二月上旬ニ至リ全滅ニ及ヘリ。然レトモ之等ハ全ク斃死ニ至ラサル中ニ速カニ取上ケ拂下ケタルヲ以テ皆生活者ト畧同様ノ價格ヲ以テ售價スル事ヲ得タリ。此間ニ於ケル成績次表ノ如シ。

池別	項目	放	養	斃	死	歩	減	備考
六號池	カイズ	二五九尾(一貫八二〇匁)	二二四尾	五八尾	五八尾	一四七尾	一四七尾	
六號池	二オ	五四二尾(一一貫五四八匁)	二六七尾	二七五尾	二七五尾	五一一尾	五一一尾	
六號池	オ	八〇七尾(一六貫五四四匁)	七七一尾	七七一尾	七七一尾	一三四尾	一三四尾	二オ魚成長シテ三オ魚ト區別明瞭ナラズ

此ニ依ツテ見レハ六號池當オ「カイズ」ハ販賣シ得タルモノ甚タ少キモ之歩減、斃死ノ多キニ因ルト亦餘リニ小形ニテ商品トシテ適セザリシニモ依ル。黒鯛ハ放養ノ際ニ於ケル負傷ニ基ク斃死者二〇五尾以外ハ一月ニ至ル迄大體異常ナク平均二十一尾三分ナリシモノ二十七尾九分ニ成育セリ、又七號池ハ二オ魚成長シテ三オノ小ナルモノト混同スルニ至リ區別明確ナラス之ヲ合算スルニ販賣セルモノハ放養ノ八〇、八%ナリ拂下價格ハ三オ七錢乃至十錢、二オ二錢五厘乃至四錢ニシテ「カイズ」ハ商品ニ適セス僅カニ五厘ナリ。

(四) 海鼠ノ蓄養

試驗ハ二回ニ亘レリ、第一回ハ四月ヨリ七月迄蓄養セルモノニテ前年度ニ於テ售價シ得サリシモノヲ繰越タルニ依リ温暖ナル時期ニ於ケル蓄養ノ狀況ヲ試驗シ第二回ハ本試驗ノ目的タル冬期十二、一月ノ候ニ於ケル蓄養ヲ行ヘリ。

第一回

導水池ノ一部六坪ヲ竹簀ニテ區割シ徑七、八寸乃至一尺大ノ石塊ヲ間隙ヲ生スル様不規則ニ積ミ重ネタリ、(石ハ二三層トス)水深ハ平均三尺ナリ此内ニ前年度ヨリ繰越セル海鼠七樽半(醬油樽八分目ヲ單位トス)一、〇二二尾重量二二貫五四〇匁ヲ放養セリ

蓄養中ノ概況(温度ハ凡テ午前八時觀測ニ依ル)

五月、水温十五度乃至二十二度、本月上旬蓄養池ニ陰所ヲ作ル爲粗朶覆ヲナス、中旬頃ヨリ多クハ粗朶ノ裏ニ隠レタリ、海鼠ハ生殖腺發達シ本月下旬ニ至リテ放卵セルモノ多シ

六月、水温二十一度乃至二十六度ニシテ漸ク日中水温高マルニ至レルヲ以テ斃死者多ク特ニ廿三日及廿八、九日ノ兩回ニ金澤灣水比重低下シ且導水部ニ塵芥堆積シテ池水ノ交換ヲ自由ニ行ヒ得サリシヲ以テ斃死者夥シク遂ニ本月中蓄養海鼠ノ全部ヲ失ヘリ

本月上旬ニ於テ海鼠ハ多ク放卵後ナリシヲ以テ放養池表面ニ「ネット」ヲ曳キ又池底泥中ヲ検査セルモ稚仔ヲ認メヌ又人工受精ヲ數回行ヒタルモ成功セザリキ

第二回

イ 使用池

導水堀ノ一部ヲ竹簀ニテ區劃シ蓄養池ニ使用ス區劃區域ハ巾二間半、長二十八間ニシテ面積七十坪ナリ、底ハ砂泥質(砂六、泥四ノ割)ニシテ中央部底ニ「エクトカーブス」屬ノ藻類發生ス、水深ハ二尺乃至三尺ナリ、蓄養池ニハ特ニ設備ヲ施サス

ロ 放養

海鼠ハ例年晩秋近海ニ於テ漁獲多クシテ價格低廉ナルモ本年ハ漁獲少ク相場モ著シク高カリシヲ以テ放養ノ時期遅延シ遂ニ十二月ニ至レルモ同月中旬ヨリ下旬ニ於テ稍漁獲多カリシヲ以テ三回ニ七十五樽ヲ購入放養セリ

其詳細次表ノ如シ

放養月日	産地	樽數	尾數	重量	一樽平均單價
十二月十八日	杉田附近	七樽	三五尾	二三貫六八〇匁	一、一〇〇
同 二十五日	同	五樽	二〇六尾	一四貫七八〇匁	一、一〇〇
同 三十日	夏島築堤附近	六三樽	三、〇八七尾	二〇九貫一三〇匁	一、〇〇〇
計		七五樽	三、六四四尾	二四七貫五九〇匁	一、〇六六

摘要 坪當り放養量 一樽強五十二尾
一樽平均尾數 四十八尾強

ハ 蓄養中概況

放養後ハ池底ヲ掘出移動シテ一面ニ散布セルカ中央部凹所并兩端竹簀附近ニ多ク集合セリ、放養後損傷部ノ腐敗ニ依リ十數尾斃死セル以外ニハ異常ナク一月ニ入りテ水温低下シ二度乃至五度平均四度ニ下レルモ少數ノ斃死以外ニ異常ヲ認メヌ經過順當ナリ。

ニ 販賣及步減

一月初旬價格騰貴セルモ蓄養狀況ヲ試驗センカ爲メニ大部分ハ暫ク蓄養ヲ繼續セルカ中旬以降收納售賣シテ一月末迄ニ拂下ヲ了セリ(但シ收納時殘存セルモノ二十七尾アリ、三月下旬ニ售賣セリ)

收納數量ハ三千六百〇六尾五十四樽ニシテ蓄養中ノ斃死者三十八尾樽減二十一樽ナリ、即容量ニ於テ步減ハ放養量ノ二十八%ニ相當ス而シテ收納時大形ナルモノ先ニセラル、傾向アルヲ以テ精確ナリト云フヲ得サルモ蓄養期間ト步減ノ關係ハ略次表ニ依ツテ知ルヲ得可シ

時日	放養時間	一月四日	一月十三日	一月二十日	一月二十七日
一樽ノ尾數	(平均) 四八、〇	五五、〇	六三、六	六五、〇	七七、〇
步減率		一二、七%	二四、五%	二六、二%	三七、七%

蓄養海鼠ハ大部分日本橋魚市場ニ售賣セルカ品質ニ就テハ一般ニ好評ヲ得タリ、拂下價格ハ一樽壹圓參拾五錢乃至壹圓五拾錢也

本試驗ノ結果ニ依レハ

一、海鼠ハ暑氣ニ對スル抵抗力薄弱ニシテ水温二十二、三度以上ニ於テ多ク斃死者ヲ出セリ、然レトモ寒氣ニ對スル抵抗力ハ強大ニシテ二度内外ノ低温ニ於テ異常ヲ認メヌ

一			月 二			十			月 一			十			月		
中	上	下	中	上	下	中	上	下	中	上	下	中	上	下	中	上	下
旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬
平	最	最	平	最	最	平	最	最	平	最	最	平	最	最	平	最	最
均	低	高	均	低	高	均	低	高	均	低	高	均	低	高	均	低	高
二、〇、八、五	二、〇、六、五	六、一、二、五	七、三、六	一、四、七	一、〇、六、一	一、三、〇、〇	一、〇、六、一	一、三、〇、〇	一、〇、六、一	一、三、〇、〇	一、〇、六、一	一、三、〇、〇	一、〇、六、一	一、三、〇、〇	一、〇、六、一	一、三、〇、〇	一、〇、六、一
十三日	十九日	六日	三、八日	二十六日	二十九日	十七日	十四日	十日	五日	二十七日	三十日	十七日	十四日	十日	八日	二十五日	二十九日
四、三、五、二	四、一、五、〇	六、〇、二、七	七、一、四、〇	九、〇、七	九、九、七、六	一、二、〇、〇	一、一、七、五、四	一、一、三、八	一、一、七、〇	一、一、九、〇	一、一、三、八	一、一、七、〇	一、一、九、〇	一、一、三、八	一、一、七、〇	一、一、九、〇	一、一、三、八
十四日	八、十日	二十九日	十二日	十五日	八日	二十七日	三十日	十七日	十四日	九日	二十五日	二十九日	十六日	十三日	八日	二十五日	二十九日
一、〇、二、四、二	一、〇、二、四、六	一、〇、二、四、八	一、〇、二、四、八	一、〇、二、四、八	一、〇、二、四、七	一、〇、二、四、八	一、〇、二、四、八	一、〇、二、四、八	一、〇、二、四、八	一、〇、二、四、八	一、〇、二、四、八	一、〇、二、四、八	一、〇、二、四、八	一、〇、二、四、八	一、〇、二、四、八	一、〇、二、四、八	一、〇、二、四、八
二十日	二日	二十九日	十二日	十五日	九日	二十七日	三十日	十七日	十四日	八日	二十五日	二十九日	十六日	十三日	八日	二十五日	二十九日
五、四、〇、二	四、二、七	七、三、〇	八、一、四、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五
二十日	九日	二十六日	十三日	十五日	十日	二十八日	三十日	十七日	十四日	九日	二十五日	二十九日	十六日	十三日	八日	二十五日	二十九日
一、〇、二、三、二	一、〇、二、三、四	一、〇、二、三、五	一、〇、二、三、五	一、〇、二、三、五	一、〇、二、三、五	一、〇、二、三、五	一、〇、二、三、五	一、〇、二、三、五	一、〇、二、三、五	一、〇、二、三、五	一、〇、二、三、五	一、〇、二、三、五	一、〇、二、三、五	一、〇、二、三、五	一、〇、二、三、五	一、〇、二、三、五	一、〇、二、三、五
二十日	六日	三十一日	十二日	十六日	十日	二十八日	三十日	十七日	十四日	九日	二十五日	二十九日	十六日	十三日	八日	二十五日	二十九日

十			月 九			月 八			月		
中	上	下	中	上	下	中	上	下	中	上	下
旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬	旬
平	最	最	平	最	最	平	最	最	平	最	最
均	低	高	均	低	高	均	低	高	均	低	高
一、六、二、六	一、四、四、八	一、九、二、二	二、七、二、二	二、七、二、二	二、七、二、二	二、七、二、二	二、七、二、二	二、七、二、二	二、七、二、二	二、七、二、二	二、七、二、二
十七日	八日	三日	二十二日	九日	六日	二十三日	十七日	十二日	二十五日	十七日	二十一日
一、八、二、五	一、七、五、〇	一、九、〇、〇	二、六、五、五	二、六、五、五	二、六、五、五	二、六、五、五	二、六、五、五	二、六、五、五	二、六、五、五	二、六、五、五	二、六、五、五
十六日	八日	三日	二十二日	九日	六日	二十三日	十七日	十二日	二十五日	十七日	二十一日
一、〇、二、四、二	一、〇、二、四、二	一、〇、二、四、二	一、〇、二、四、二	一、〇、二、四、二	一、〇、二、四、二	一、〇、二、四、二	一、〇、二、四、二	一、〇、二、四、二	一、〇、二、四、二	一、〇、二、四、二	一、〇、二、四、二
十三日	六日	一日	二十四日	十一日	九日	二十五日	十八日	十七日	二十六日	十七日	二十四日
一、七、四、〇	一、八、二、五	一、九、四、二	二、四、〇、八	二、四、〇、八	二、四、〇、八	二、四、〇、八	二、四、〇、八	二、四、〇、八	二、四、〇、八	二、四、〇、八	二、四、〇、八
十七日	十日	三日	二十六日	十四日	二日	二十七日	十九日	十七日	二十八日	十九日	二十五日
一、〇、二、三、八	一、〇、二、三、八	一、〇、二、三、八	一、〇、二、三、八	一、〇、二、三、八	一、〇、二、三、八	一、〇、二、三、八	一、〇、二、三、八	一、〇、二、三、八	一、〇、二、三、八	一、〇、二、三、八	一、〇、二、三、八
十六日	四日	一日	二十九日	十八日	五日	三十日	二十一日	二十日	三十一日	二十一日	二十八日

三ヶ月中	最高		最低	
	平均	均	平均	均
三、七、九	三二、七	三二、七	二七、一	二七、一
八、九、十	三二、四	三二、四	二七、九	二七、九
十一、十二、十三	一九、三	一九、三	二七、九	二七、九
十四、十五、十六	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
十七、十八、十九	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
二十、二十一、二十二	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
二十三、二十四、二十五	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
二十六、二十七、二十八	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
二十九、三十、三十一	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
三十二、三十三、三十四	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
三十五、三十六、三十七	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
三十八、三十九、四十	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
四十一、四十二、四十三	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
四十四、四十五、四十六	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
四十七、四十八、四十九	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
五十、五十一、五十二	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
五十三、五十四、五十五	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
五十六、五十七、五十八	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
五十九、六十、六十一	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
六十二、六十三、六十四	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
六十五、六十六、六十七	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
六十八、六十九、七十	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
七十一、七十二、七十三	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
七十四、七十五、七十六	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
七十七、七十八、七十九	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
八十、八十一、八十二	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
八十三、八十四、八十五	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
八十六、八十七、八十八	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
八十九、九十、九十一	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
九十二、九十三、九十四	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
九十五、九十六、九十七	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
九十八、九十九、一百	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇

〔備考〕 温度攝氏、比重ハ標準温度ニ於ケル比重

鮎人工孵化放流試験

一、試験ノ趣旨

本縣ニ於テ鮎ノ産スル河川ハ相模川、多摩川、酒匂川ヲ主トシ就中相模川其最タルモノニシテ是等諸川ノ産額ハ約四萬圓ニ上リ本縣淡水魚中ノ主要ナルモノニ屬ス然ルニ漁人ハ年々其ノ數ヲ増シ漁具漁法ハ精銳苛酷トナルニ隨ヒ漸次繁殖力ニ對スル漁獲ノ不均衡ヲ來スヲ以テ本縣漁業取締規則ニ依リ産卵期、稚魚期ノ禁漁ヲ制定シ或ハ漁具漁法ニ制限、禁止ヲ加ヘテ一々繁殖保護ノ途ヲ講スルト雖トモ未タ之ヲ以テ萬全ノ策ト云フコトヲ得ス茲ニ於テ本年度ヨリ新ニ本試験ヲ施行シ積極的ニ之カ繁殖ヲ企テ産額ノ増大ヲ計ラントス

一、孵化場ノ位置

孵化場ハ愛甲郡妻田村字下河原地先ニシテ相模川ノ支流小鮎川カ本流ニ合スル河口右岸ノ官有地川敷ノ河原ニ設備ヲナシ番舎(平家亞鉛板葺間口三間奥行二間)ハ出水時被害ノ關係上此處ニ置キ難キヲ以テ特ニ百餘間ヲ距ツル厚木町部内ノ堤防上ニ於テ孵化場ノ展望監視ニ便ナル場所ヲ撰ヒテ之ヲ設置セリ

一、孵化場ノ設備

相模川ハ夏秋ノ季出水氾濫スルコト往々アルヲ以テ孵化場ハ簡單ニシテ堅牢ナル裝置ヲ撰ヘリ即河原中ニ延長十二間巾五尺深二尺兩側板柵付ノ溝渠ヲ設ケ其ノ上方ハ長四十八間巾三尺深一尺ノ導水路ニヨリ下方ハ長十間巾三尺深一尺ノ排水路ニヨリ小鮎川ト連通セシム而シテ導水路ヲ長クセルハ其勾配ヲ大ナラシメ水ノ交流ヲ良好ナラシムル爲ニシテ取入口ニハ別段ノ設備ヲナス唯タ土俵ヲ以テ河ヲ堰キ孵化場ニ入ルヘキ水量ヲ多カラシムルノミナルモ導水路ヨリ孵化場ヘノ入口ニハ塵芥防避用ノ金網戸ヲ設ケ又孵化場ト排水路トノ間ニハ害敵ノ侵入ヲ防クヘキ金網戸ヲ設ケ且ツ板戸ヲモ備ヘテ孵化場内ノ水量ヲ加減ス解

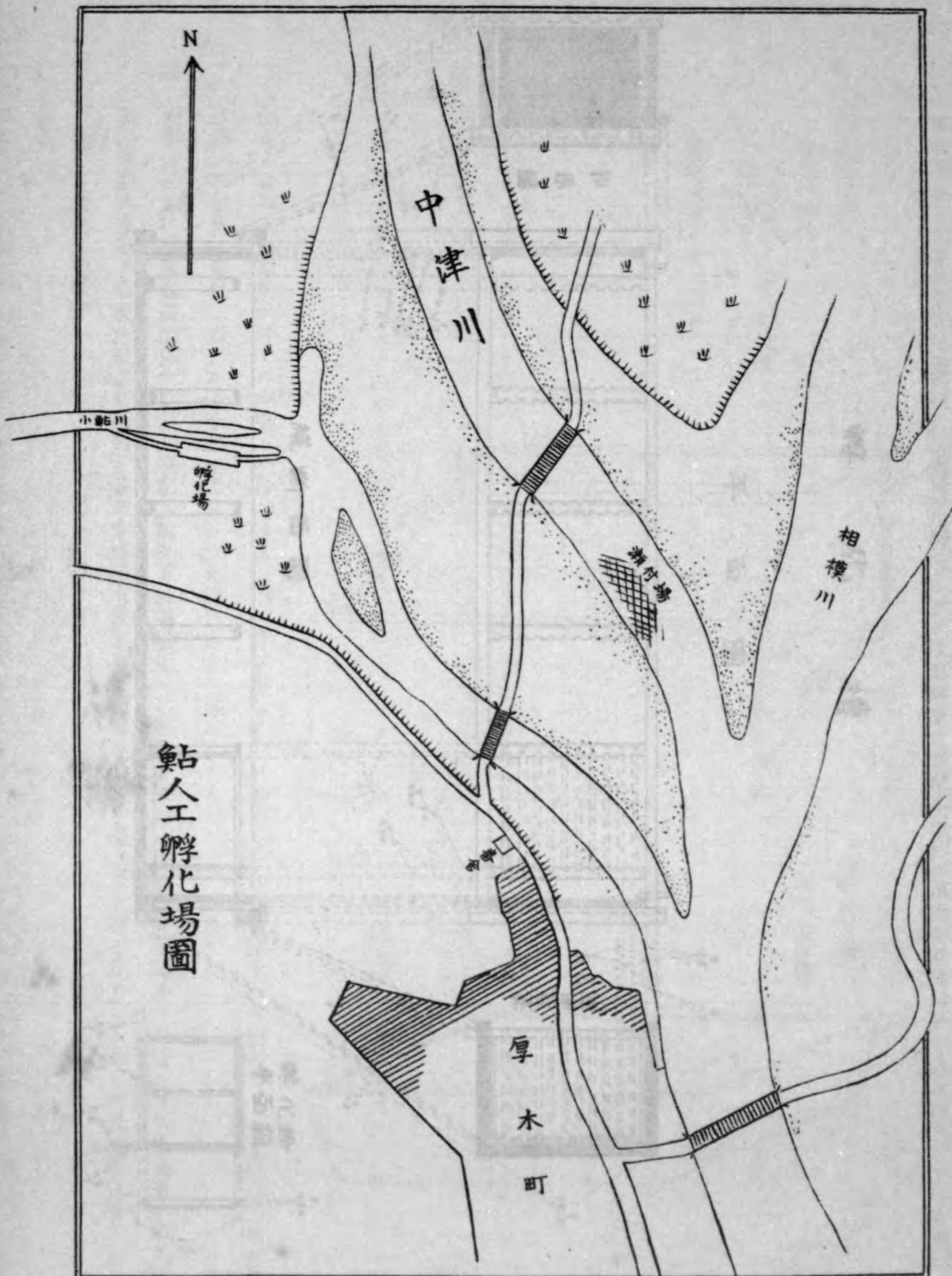
化場兩側ノ板柵ハ高二尺松六分板張杭ハ末口二寸五分長四尺ノモノヲ二尺間ニ打込ミ別ニ孵化場ノ入口ヨリ兩側ノ板柵ニ沿ヒ各六尺ヲ距ツル部位ヲ始メトシ夫ヨリ兩側ニ二間隔ニ各松材五寸角長六尺ノ杭ヲ板柵ノ高ト同様ニ打立テ之ニ鐵鎖ヲ以テ孵化槽ヲ結着ス

一、孵化用及採卵用器具

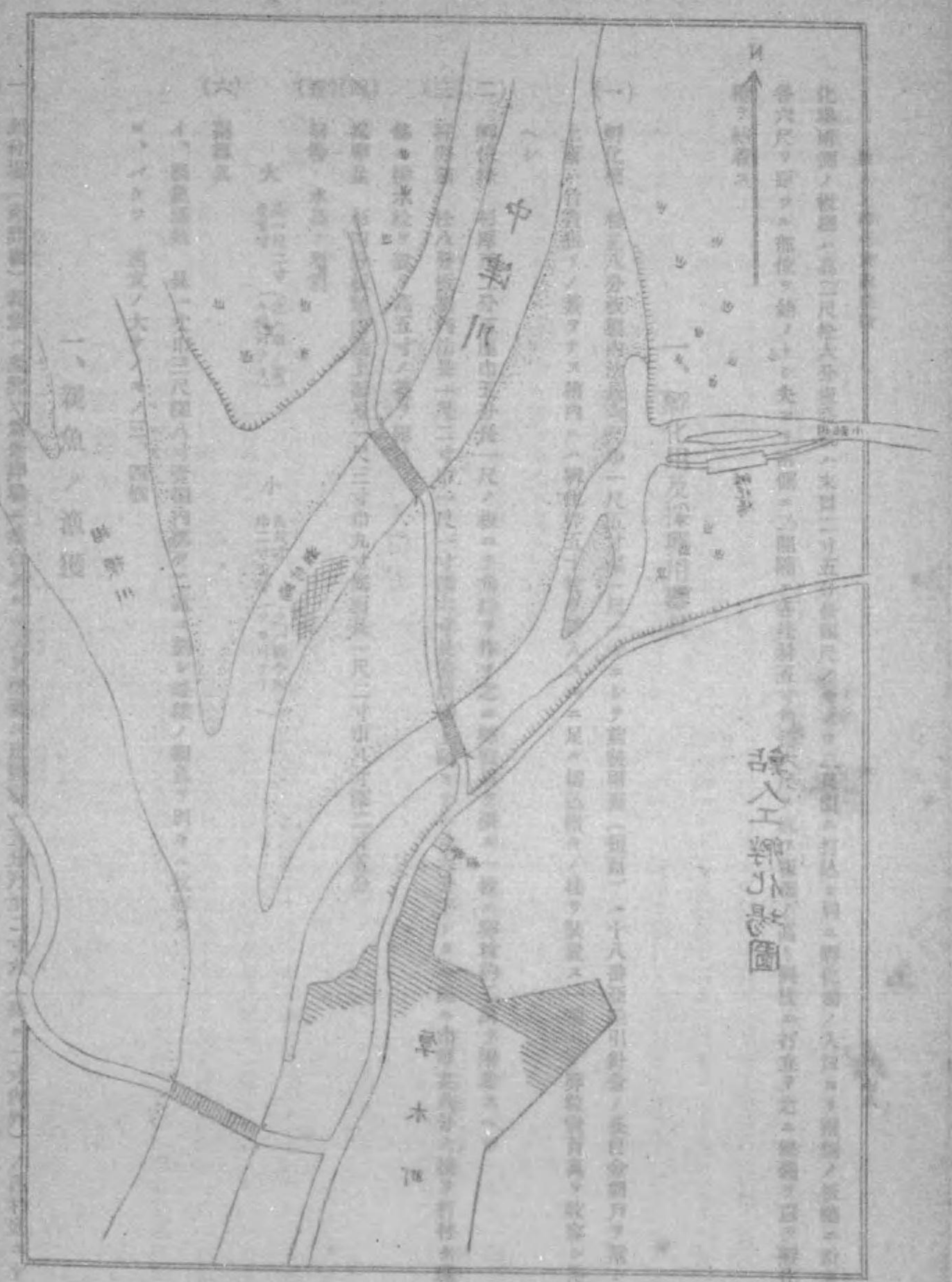
- (一) 孵化槽 杉正八分板製内法長六尺巾一尺五寸深一尺一寸ニシテ前後兩面(短面)ハ十八番亞鉛引針金ノ長目金網戸ヲ附シ上面ハ竹簀張リノ蓋ヲナス槽内ニハ孵化枠五十枚ヲ挿入スルニ足ル切込附キノ棧ヲ裝置ス一槽ニテ卵粒壹百萬ヲ收容シ得ヘシ
- (二) 孵化枠 杉厚正二分五厘巾五分長一尺ノ板ニテ角枠ヲ作リ之ニ棕桐皮ヲ張ル一枚ニ卵粒約二萬ヲ附着スヘシ
- (三) 採卵箱 松八分板製内法長一尺二寸巾一尺一寸深六寸長邊兩側上面ヨリ一寸六分下リタル處ニ巾厚共八分ノ棧ヲ打付ケ底部ニ排水栓ヲ設ケ高五寸ノ臺ヲ附ス
- (四) 採卵盆 杉四分板製内法上面長一尺三寸巾九寸底面長一尺二寸巾八寸深二寸五分
- (五) 羽箒 水鳥ノ羽製
- (六) 副器具
 - イ、親魚活箱 長一丈巾三尺深八寸壹個内部ヲ二區ニ劃シ雌雄ノ親魚ヲ別々ニ收容ス
 - ロ、バケツ 適宜ノ大サノモノ三、四個

一、親魚ノ漁獲

(一) 瀬付場(産卵場)親魚ハ産卵ノ爲産卵場ニ集合スルモノヲ漁獲ス産卵場ハ五分乃至二寸大(殊ニ一寸内外)ノ砂利底ニシ



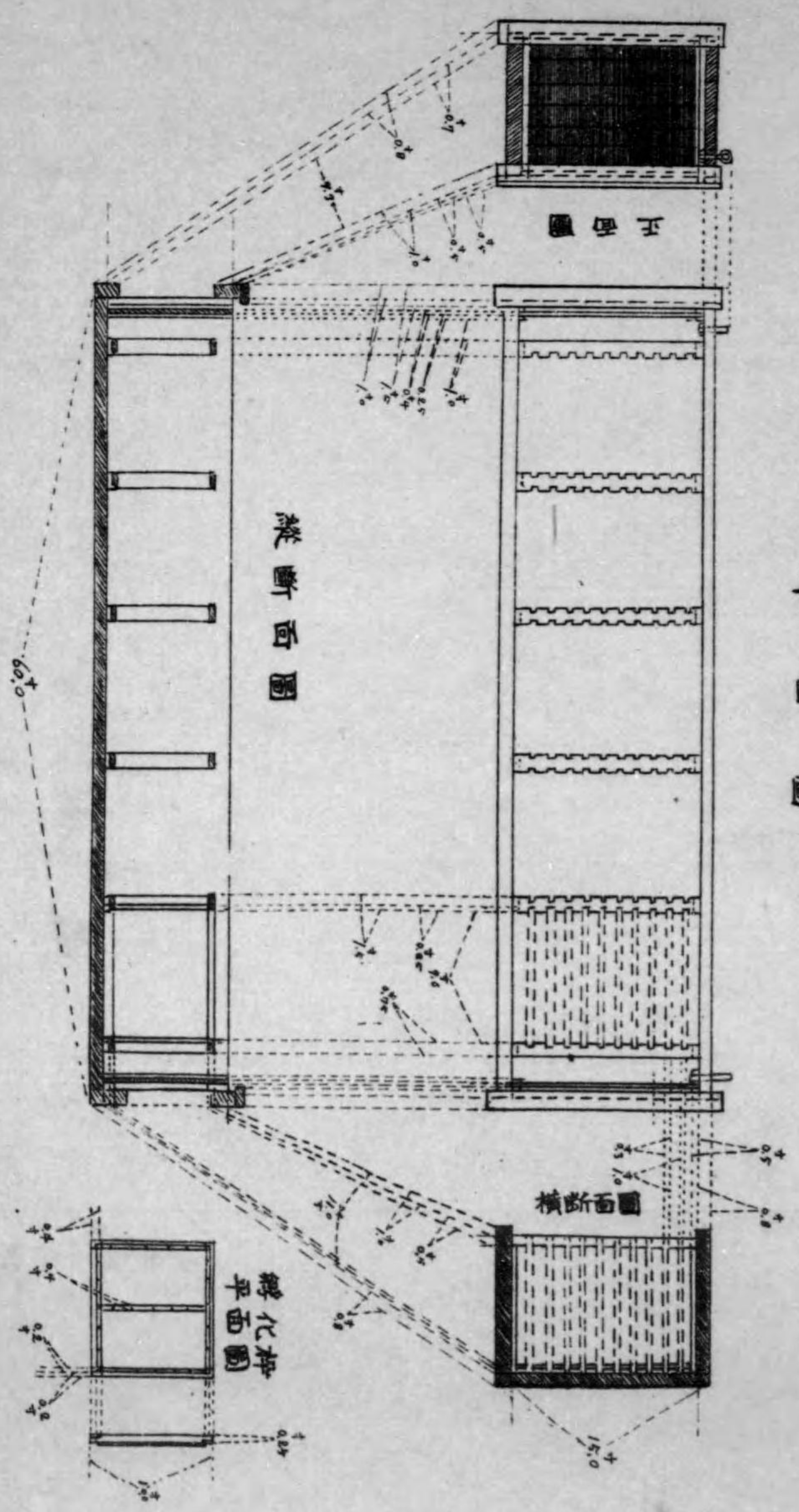
鮎人工孵化場圖

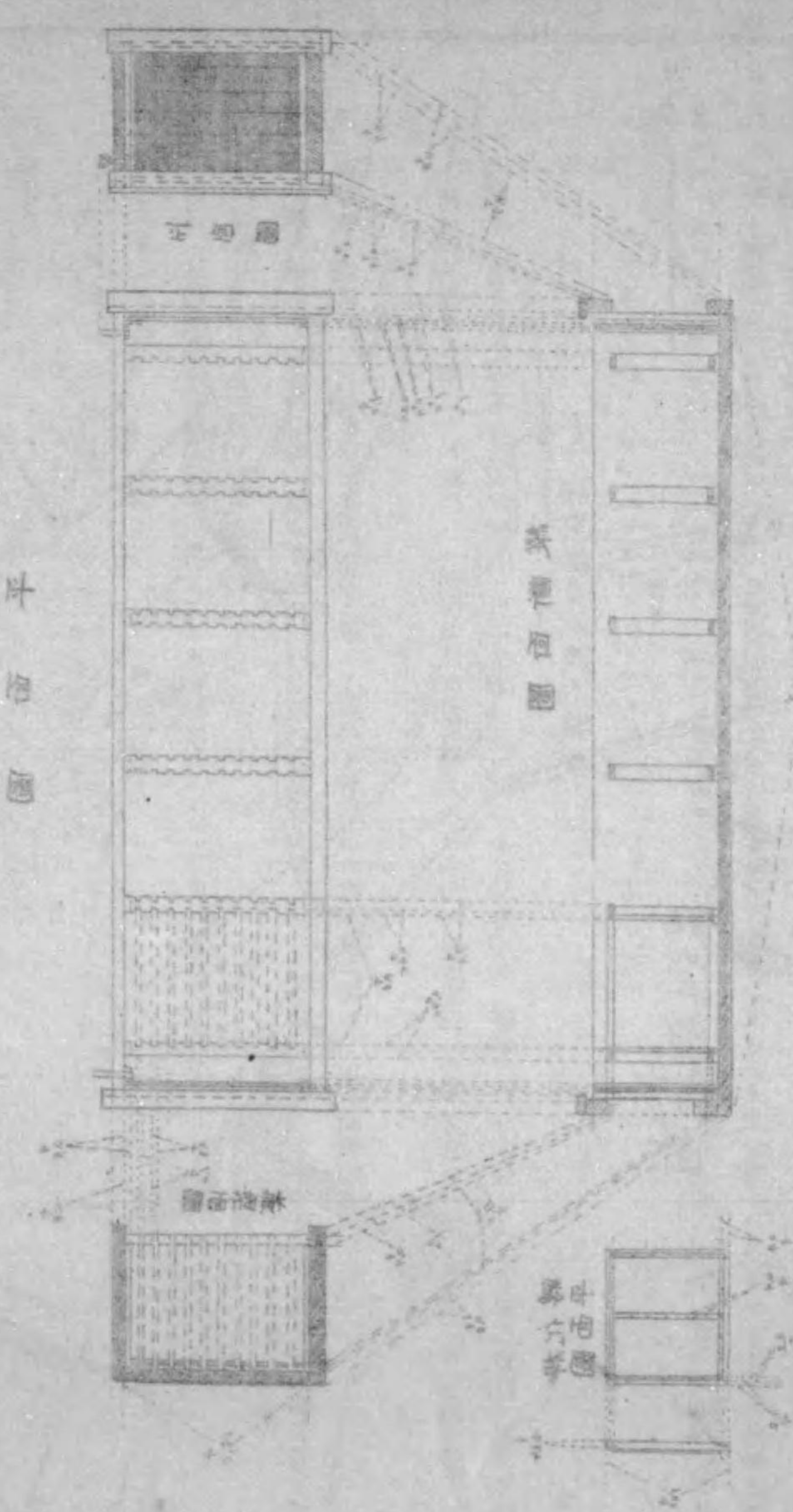


沼子工務所敷圖

槽化槽

平面圖





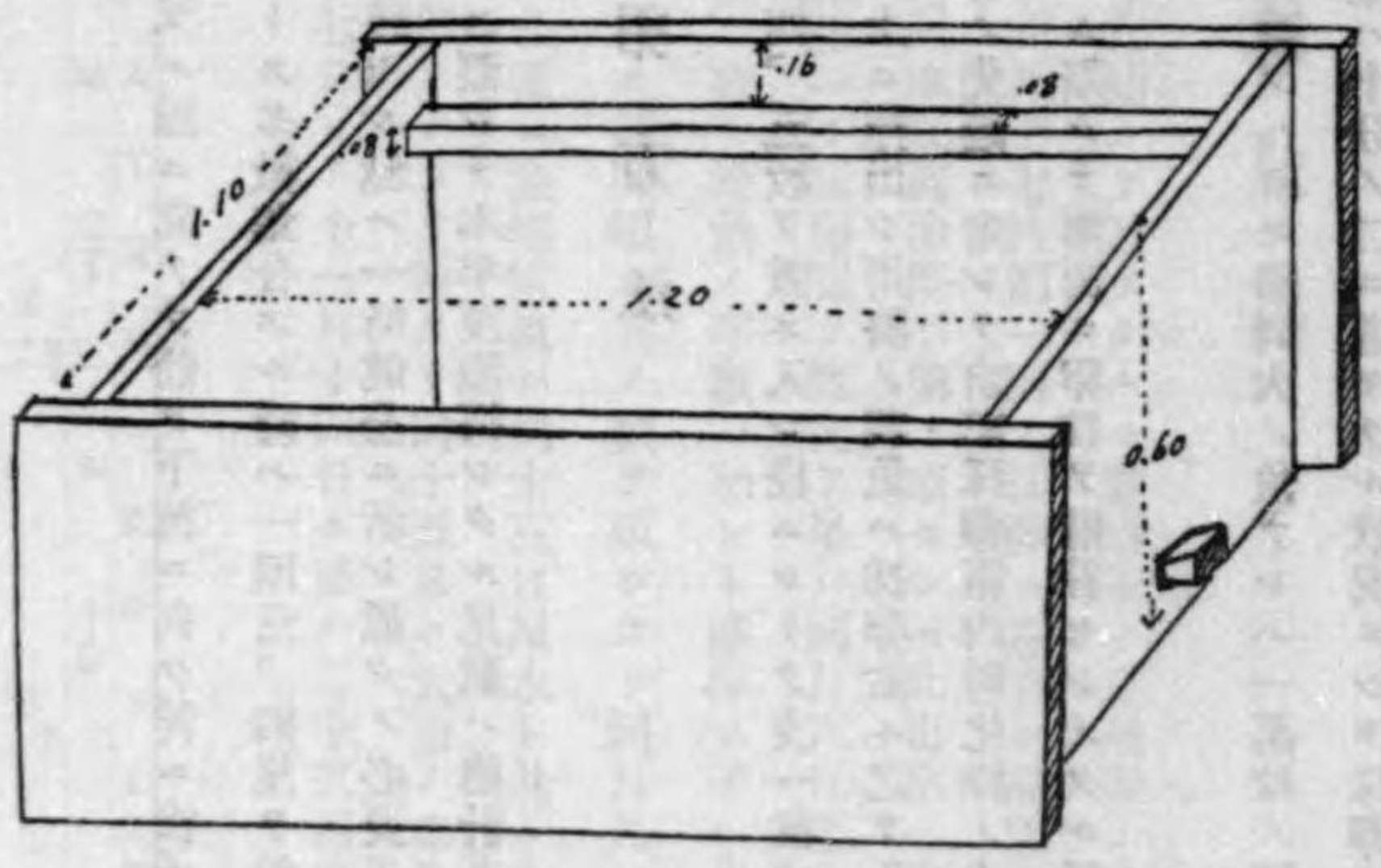
水深四、五寸乃至二尺(普通一尺内外)水勢稍ヤ強ク水清澄ニシテ底ノ砂利ニ水垢ノ堆積セサル處トス

採卵箱ノ圖

松八分板製

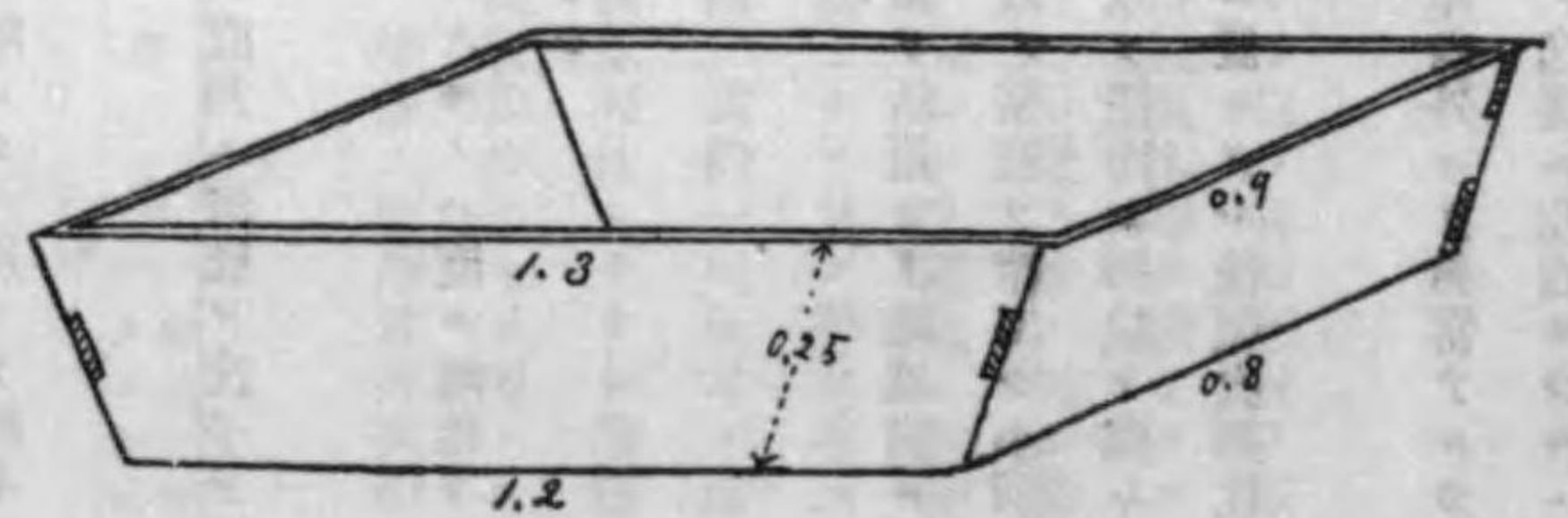
内法 長一尺二寸、巾一尺一寸
深六寸

脚高五寸ノ臺ヲ附ス



採卵盆ノ圖

杉四分板製



(二) 瀬付ノ時期 相模川ニ於ケル時期ハ十月中旬ヨリ十一月下旬迄ニシテ盛期ハ十月下旬及十一月初旬ナリ本年度厚木町ニ於テ初メテ親魚ノ瀬付ヲ見タルハ十月十二日ニシテ終了ハ十一月末日ナリシ

(三) 瀬付ノ時刻 生殖素成熟セル親魚ハ前記ノ如キ瀬付場附近ニアル稍ヤ深部ニ集リ居リ薄暮ヨリ夜間ニカケ瀬付場ニ出テ砂利ニ産卵ス産卵ハ初期ニ於テハ夜間ニ多キモ盛期ニ至レハ晝間ニテモ瀬ニ出テ産卵ス然レトモ概シテ午後四時頃ヨリ七點人工孵化放流試験

(四)

時頃迄最モ瀬付盛ニシテ親魚ヲ漁獲スルモ此時刻最モ良好タリ... 漁具及使用方法 主トシテ粘掛釣ヲ用ユ投網ニテモ漁獲シ得ルモ産卵場ヲ荒シ且一時ニ多ク漁獲スルニ依リ魚ヲ損傷セシメ又ハ腹部ヲ壓迫シテ卵ヲ放出セシムル等ノ缺點アリ... 漁具ハ空釣ノ一種ニシテ竿ノ長一丈二、三尺糸ハ竿ノ長ヨリ三、四尺長キ天蓋糸ヲ用キ沈子ハ徑五分位ノ鉛玉ニシテ糸ノ先端ヨリ約五尺ノ所ニ付シ鈎ハ二分五厘乃至三分ノ「アゲ」ナキモノニシテ沈子ヨリ少シク離レタル所ヨリ約七寸ノ間隔ニテ七本ヲ結付ス

(五)

使用法ハ漁船一人乗ヲ瀬ニ繋留シ又ハ瀬ニ立テテ體ヲ下流ニ向ケ沖ニ沈子ヲ投入シテ河流ニ直角ニ河底ヲ沈子ヲ曳キ廻シ集合スル粘ヲ引懸ケ漁獲スルモノトス多數集合スル時ハ一回三、四尾ヲ釣上クルコトアリ... 親魚ノ活蓄 採卵用親魚トシテ漁獲セル粘ハ一時健全ニ活シ置クノ必要アルヲ以テ釣獲シタルモノハ直ニ雌雄ヲ分ケ各別ニ活船中ニ放テ活ケ置キテ用ニ供ス而シテ本年度漁獲シタル尾數ハ總計九千九十八尾ナリシ

一、採卵方法

先ツ採卵箱ニ水ヲ滿タシ此中ニ孵化棒四、五枚ヲ重ネ入レ棧ニヨリテ支ヘ置ク次ニ漁獲セル親魚ヲ活箱ヨリ雌雄別ニ「バケツ」ニ取り出シ最初雌魚ヨリ卵ヲ大羽等ノ上ニ掉出シ用濟ノ親魚ハ採卵盆ニ之ヲ入レ次ニ卵上ニ雄魚ノ精液ヲ掉出シ小羽等ニテ可寧ニ攪拌混合シタル後少量ツ、小羽等ノ先端ニ附シテ前記採卵箱内孵化棒ノ水面ニ入レ敏速ニ水ヲ攪拌シ卵粒ヲ個々ニ離シテ厚薄ナキ様棕櫚皮上ニ落下シ附着セシム斯クテ兩面ニ卵粒ヲ附着セシメタル孵化棒ハ一時河中ニ置キタル後順次孵化槽ニ收容シ孵化場ニ静置ス

雌雄交配ノ割合ハ親魚ノ大サニ依リ加減スヘキモ略同大ノ魚ナレハ一萬粒ノ卵ニ對シ雄二、五尾内外ニテ相當ナルカ如シ... 雌雄漁獲ノ割合ハ厚木町附近ニテハ雌ハ十分ノ二ニ過キサル狀況ニシテ採卵ノ成績ハ一ニ雌魚ノ漁獲ニ左右セラル、狀態ナリキ又瀬付ハ概シテ雌魚ヨリ雄魚ノ方早ク雌魚カ多ク瀬付ヲナスニ至レハ産卵期ハ既ニ其極ニ達セルモノニシテ忽チ終了ニ到ル

モノナルカ如シ

一、採卵狀況

厚木町附近ニ於ケル瀬付ハ十月十二日夜始メテ認メタルモ當時未タ生殖素ノ成熟十分ナラサリシヲ以テ毎日瀬付ノ狀況生殖素ノ熟否ヲ檢シ其ノ成熟十分ナルヲ觀テ同月十七日第一回ノ採卵ニ着手シ爾後廿八日迄十二回毎日捕魚採卵ヲ續ケタルニ廿九日ヨリ三十一日ニ至ル三日間ハ出水ノ爲河水混濁漁獲不能ヲ來セシモ此出水ハ幸ニ被害ナク十一月一日退水後ハ粘ノ集合漸ク多ク瀬付頗ル盛ニ孕卵數多キ雌魚ノ漁獲加ハリ採卵隨テ盛況ヲ呈シ同月六日迄此盛況ヲ持續シ其ノ翌日ヨリ雌魚ノ放卵セルモノ多キヲ加ヘ同月八日、十二日漁獲親魚ノ如キ雌魚ノ半數ハ殆ント産卵ヲ了ヘタルモノ、ミノ有様トナリ其ノ卵ヲ有スルモノモ僅ニ三、四割ノ卵ヲ殘存スルニ過キス爲ニ採卵頓ニ其ノ數ヲ減シタリ同月九日乃至十一日ハ降雨ノ爲約一尺五寸ノ増水ヲ來シ河水混濁再ヒ漁獲不能トナリ同月十二日僅ニ漁獲恢復シ同十三日減水ト共ニ上流ヨリ下レル親魚瀬付キヲナシ漁獲激増シ十三、十四ノ兩日ニテ約百八十萬粒ノ採卵ヲナスヲ得タリ同十五日ハ大雨ノ爲漁獲ナク其ノ後引續親魚少ナキニ至レルヲ以テ採卵ヲ終了スルコト、セリ而シテ十月十七日ヨリ十一月十四日ニ至ル二十二回毎回ノ親魚漁獲數、雌雄ノ使用數并採卵數等ハ左表ノ如シ

採卵月日	漁獲高	人工受精ニ使用セル親魚數	採卵數	卵粒ヲ附着シタル孵化棒數
十月十七日	三〇一尾	五一	六三〇、〇〇〇	二四
同十八日	三二四尾	六六	五七〇、〇〇〇	二三
同十九日	一一六尾	二七	一六〇、〇〇〇	七
同二十日	二七四尾	二八	三〇〇、〇〇〇	一三
同二十一日	二九二尾	五八	五六〇、〇〇〇	二七
同二十二日	四〇〇尾	九八	八四〇、〇〇〇	四二
同二十三日	三五九尾	六八	四一〇、〇〇〇	二二
同二十四日	三一七尾	八九	五二〇、〇〇〇	二四

大正七年三月二十八日印刷
大正七年三月三十一日發行

神奈川縣水產試驗場

印刷者 大橋 德壽

神奈川縣橫濱市相生町三丁目五十一番地

印刷所 大橋活版印刷所

神奈川縣橫濱市相生町三丁目五十一番地

電話 二千七百二十番

1424
306

終